



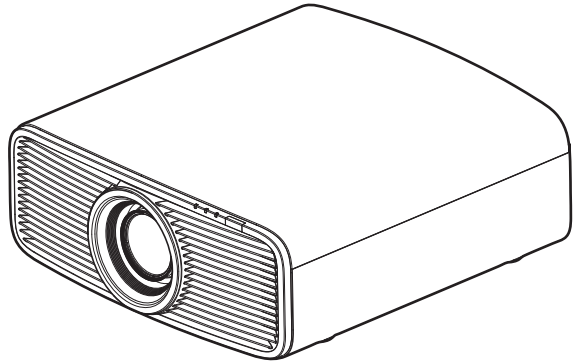
Victor

取扱説明書

D-ILA プロジェクター

型名 **DLA-Z7**
DLA-Z5

D-ILA[®]
HDMI[®]
HIGH-DEFINITION MULTIMEDIA INTERFACE



スマートユーザーガイド

● <https://manual3.jvckenwood.com/projector/mobile/jp/>

スマートユーザーガイドは、スマートフォンやタブレットなどのインターネット端末で閲覧することができます。



ユーザー登録
のすすめ

お買い上げいただきました製品について「ユーザー登録」をお願いいたします。ご登録いただきますと、製品のサポート情報、JVCケンウッド製品の情報やイベント情報の提供サービスなどをご利用いただけます。また、今後のよりよい製品開発のためのアンケートにもご協力をお願いいたします。

● 下記のホームページアドレスより、ご登録ください。
<https://www32.jvckenwood.com/jvc/system/cons/>

お買い上げありがとうございます。

ご使用前に、この「取扱説明書」をお読みのうえ、正しくお使いください。

特に「安全上のご注意」（4～9ページ）は必ずお読みいただき、安全にお使いください。

お読みになったあとは、保証書と一緒に大切に保管し、必要なときお読みください。

D-ILA[®] は、株式会社 JVC ケンウッドの登録商標です。

はじめに

準備

操作

調整・設定

お手入れ

困ったときは

その他

もくじ

はじめに

付属品	3
付属品を確認しましょう	3
安全上のご注意	4
各部のなまえとはたらき	10
本体 - 前面	10
本体 - 底面	10
本体 - 背面	11
本体 - 入力端子	11
リモコン	12
リモコンへ電池を入れる	13
リモコンの操作範囲	13
メニュー	14

準備

設置する	16
設置するときのご注意	16
固定するときのご注意	17
位置調整のしかた	18
接続する	19
HDMI 入力端子とつなぐ(デジタル入力)	19
LAN 端子とつなぐ	20
電源コード(付属品)をつなぐ	21

操作

映像をみる	22
投写画面を調整する	24
投写箇所に合わせてレンズを調整する	24
画面サイズ(アスペクト)を調整する	25

調整・設定

画質を調整する	26
画質モードを設定する	26
カラープロファイルを設定する	27
投写される映像の出力値を調整する(ガンマ/トーンマップ)	30
動きの早い映像の残像を低減する(C.M.D.)	31
メニューで行う調整と設定	32
メニュー項目一覧	32
画像設定	36
HDMI 設定	48
設置設定	51
情報	64

お手入れ

キャビネット、リモコンのお手入れ	65
------------------------	----

困ったときは

故障かな?と思ったら	66
こんな表示がされたら	70
保証とアフターサービス	71

その他

外部制御	72
TCP/IP 接続	72
コマンドフォーマット	73
リモコンコード	74
通信例	75
主な仕様	76
索引	84

本書で使用するマークについて

Z7 は、DLA-Z7 に対応します。

Z5 は、DLA-Z5 に対応します。

マーク記載のない項目は、全機種に対応します。

本書に記載しているプロジェクター本体図は、DLA-Z7 のものです。

その他のモデルでは、プロジェクターの外観が一部異なる場合があります。

付属品

付属品を確認しましょう

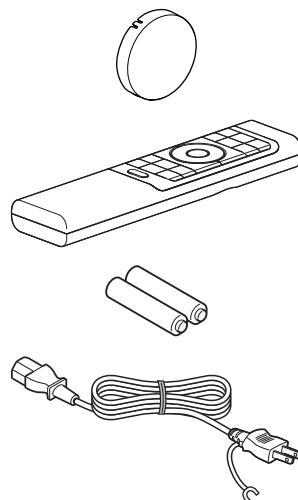
レンズカバー 1 個

※ 出荷時は本体に取り付けてあります。

リモコン 1 個

単 4 形乾電池(動作確認用) 2 個

電源コード(約 2 m) 1 個



- このほかにクイックユーザーガイド、安全上のご注意、保証書(クイックユーザーガイド裏表紙に記載)、その他印刷物が入っています。
- 本機をご使用前に必ず「安全上のご注意」をお読みください。

安全上のご注意

ご使用になる方や他の人々への危害や損害を防ぐために、必ず守っていただきたいことを説明しています。

警告 「人が死亡、または重傷を負うことが想定される」内容

注意 「人が傷害を負ったり、物的損害が想定される」内容

絵表示についての説明

注意、警告が必要なこと



一般的注意



感電注意



高温注意

禁止されていること



禁止



分解禁止



ぬれ手禁止



水場での使用禁止

実行して欲しいこと



電源プラグを抜く



アース線をつなぐ

警告

異常な状態でそのまま使用しない

万一異常が発生したときは

- 煙が出ている、異臭がする
- 内部に水や物が入った
- 落下などにより破損した
- 電源コードが傷んだ
- ファンが動かない



電源スイッチを切る
電源プラグをコンセントから抜く

そのまま使用すると、火災や感電の原因となります。
販売店に修理を依頼してください。

次のようなことはしない

電源プラグ、コード

- ・コードやプラグに傷がつくと火災や感電の原因となります。
- ・誤った使用をするとショートや発熱などにより火災や感電の原因となります。



禁止

- 電源コードは付属品以外を使用しない
- 電源コードやプラグを傷つけない
- 電源プラグはコードの部分を持って抜かない
- 付属の電源コードを他の機器で使用しない
- 電源プラグは根元まで差し込んでもゆるみがあるコンセントには接続しない
- 電源プラグやコンセントにほこりや金属が付着したまま使用しない
- 表示された電源電圧以外では使用しない
- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない








ぬれ手禁止








感電注意

- 雷がなったら電源プラグをさわらない

分解・改造をしない		機器の上に水の入った物を置かない	
 分解禁止	内部に高電圧の部分があり、火災や感電の原因となります。	 禁止	機器の内部に水が入ると、火災や感電の原因となります。
投写レンズをのぞかない		内部に物や可燃性ガスなどをいれない	
 禁止	強い光が目にあたると視力障害の原因となります。	 禁止	機器の内部に物や可燃性のガスなどが入ると、火災や感電の原因となります。
梱包に使用したポリ袋などは、小さなお子様の手の届くところに置かない			
 禁止	頭からかぶると窒息の原因となります。		








次の場所には設置しない

設置全般		
・ 誤った場所に設置し使用すると、爆発や火災、感電の原因となります。		
 禁止	<ul style="list-style-type: none"> 引火、爆発のおそれのある場所では使用しない 湿気やほこり、湯気、油煙のあたる場所に設置しない 熱源の近くには置かない 機器の変形、劣化のほか火災の原因にもなります。 通気口、排気口をふさがない 絨毯や布団などの上やクロスなどをかけて使用すると内部に熱がこもって火災の原因となります。 通気口、排気口にエアコンなどの風を直接あてない 内部に熱がこもって、火災の原因となります。 不安定な場所や荷重に耐えられない場所に置かない 落下や転倒などから、怪我の原因となります。また本機は縦置きでの設置は不可です。 	
	 水場での使用禁止	<ul style="list-style-type: none"> 風呂場など水のある場所では使用しない
	 一般的注意	<ul style="list-style-type: none"> キャスター付の台に乗せるときはキャスターを固定する 動いたり、倒れたりしてけがの原因となります。
天吊り		
 禁止	<ul style="list-style-type: none"> 専門の知識や技術のないかたは設置工事をしない 落下してケガの原因となりますので、お客様による設置は絶対に行わず、必ず販売店にご依頼ください。 振動する場所への天吊り設置はしない 振動により取付部分が破損し、落ちたりしてけがの原因となります。 ぶらさがったり、ゆすったり、物をひっかけたりしない 過度の荷重がかかると、落ちたりしてけがの原因となります。 	
 一般的注意	<ul style="list-style-type: none"> 本機を天井に固定するときは 当社以外の天吊り金具ならびに天吊り金具設置環境の不具合による製品の損傷などについては保証期間中であっても当社は責任を負いかねますのでご注意ください。天井に吊り下げて使用するとき、本機周辺の温度には気をつけてください。暖房を使用した場合、天井付近は予想以上に高温になります。 本機を天吊り金具に取付ける場合、トルクは、$1.5\text{N}\cdot\text{m} \sim 2.0\text{N}\cdot\text{m}$の範囲に設定してください。これ以上のトルクで締め付けると製品損傷により落下につながる危険性があります。 旧モデルで使っていた天吊り金具を再度利用する際は、重量増や周辺スペースに問題ないか含めて専門業者にご依頼・ご相談ください。 地震が発生したときなどの事故防止に必ず落下防止の処置をしてください。 	






⚠ 注意

次のようなことはしない

健康のため30～60分ごとに5～15分の休憩をとり、目を休めてください


 一般的注意	映像鑑賞中に疲労、不快感等、異常を感じたら使用を中止してください。	
機器の上に重い物をのせたり、乗ったりしない		投写レンズに触らない
 禁止	けがの原因や、変形して火災や感電の原因となります。	 禁止
高温部には触れない		持ち運びするとき
 高温注意	投写中は排気口やその周辺部には触れないでください。 やけどの原因となります。	 一般的注意
レンズシフト動作中は、レンズ周辺の開口部に手を入れない。		
 一般的注意	手を挟み、けがの原因になることがあります。	
レンズカバーを取り外す		
 一般的注意	<ul style="list-style-type: none"> 本機を使用しないときは、レンズの汚れ防止のためにレンズカバーをつけます。 レンズカバーをつけたまま投写しないでください。熱でレンズカバーが変形したり、本機が故障する場合があります。 	

電源プラグ、コードに関する注意


お手入れをするときは電源プラグを抜く		長時間使用しないときは電源プラグを抜く	
 電源プラグを抜く	安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。 感電の原因となります。	 電源プラグを抜く	電源が切れても機器に電気が流れています。安全、節電のために電源プラグを抜いてください。
アース線を接続する		移動するときは電源プラグや接続コード類をはずす	
 アース線をつなぐ	アース線を接続しないと感電の原因となります。	 電源プラグを抜く	コード類を傷つけると、火災や感電の原因となります。
その他			
 一般的注意	<ul style="list-style-type: none"> 半年に一度は、プラグを抜いて乾いた布で拭いてください。 電源プラグはコンセントの根元まで確実に差し込んでください。 電源プラグは抜き差ししやすいコンセントに差し込んでください。 電源コードはこの機器につないでからコンセントにつないでください。 電源プラグが容易に抜き差しできる空間を設け、機器はコンセントに容易に手が届く位置に設置してください。 		

その他


3年に一度は内部点検をしてください

 一般的注意	<p>本機には機能を維持するために交換が必要となる部品(冷却ファンなど)が含まれています。部品交換の目安は使用する頻度や環境によって大きく変わります。交換につきましては、お買い上げの販売店、またはお近くのサービス窓口にご相談ください。</p>
--	---


固定して使用するとき

 一般的注意	<ul style="list-style-type: none"> 地震など、非常時の安全確保と事故防止のため、転倒・落下防止の処置をしてください。 本機を台や天井に固定するときは、確実に固定してください。 取付に際しては取扱説明書を参照の上、天井りの設置工事は必ず販売店、専門業者にご依頼ください。
--	--


使用上のご注意

 一般的注意	<p>素子に画像が焼き付くことがあります</p> <ul style="list-style-type: none"> 主にビデオゲームやコンピュータープログラム画面など高輝度・高コントラスト画面を持つ静止映像などを長い時間映さないでください。通常のビデオ再生映像などの動画では問題ありません。 <p>長時間使用しないと、機能に支障をきたすことがあります</p> <ul style="list-style-type: none"> ときどき電源を入れて動作させてください。 <p>たばこを吸う部屋での使用は避けてください</p> <ul style="list-style-type: none"> 光学系部品にヤニの汚れが付くと、取り除く事はできません。性能劣化の原因となります。 <p>機器の接続について</p> <ul style="list-style-type: none"> 各機器の電源を切った状態でケーブルを接続してください。電源が入った状態で接続すると故障の原因となります。 ケーブル接続作業は、手のひら全体で壁にさわるなどをする事で身体の帯電を除去した状態で行ってください。
--	---

乾電池の使い方

 禁止	<ul style="list-style-type: none"> プラス(+)とマイナス(-)のまちがい 違う種類や一度使用した電池を混ぜる 電極のショート 加熱、分解および水中もしくは火中へ入れる 充電する <p>誤った使いかたをすると、液漏れ、発熱、発火、破裂などでけが、火災の原因となります。長時間使用しないときは、電池を取り出しておいてください。万一、液漏れしたら、電池ケースに付いた液をよく拭き取ってください。液が身体、衣服などに付いたときは、水でよく洗い流してください。電池を廃棄するときは、お住まいの自治体の指示に従ってください。</p>
---	---

リモコンについて

 一般的注意	<ul style="list-style-type: none"> 直射日光の当たるところや高温になるところにリモコンを置かないでください。熱による変形や内部部品に悪影響を与え、火災の原因となります。 保管の際には電池をリモコンから取り出してください。長期間電池を入れたままにしておくと、液漏れなどを起こす原因となります。
--	--

- 本機は「JIS C61000-3-2 適合品」です。

レーザー光源について（レーザー光源機種）



一般的注意

- 本機は、IEC 60825-1: 2014に適合したクラス1レーザー製品です。

説明ラベル

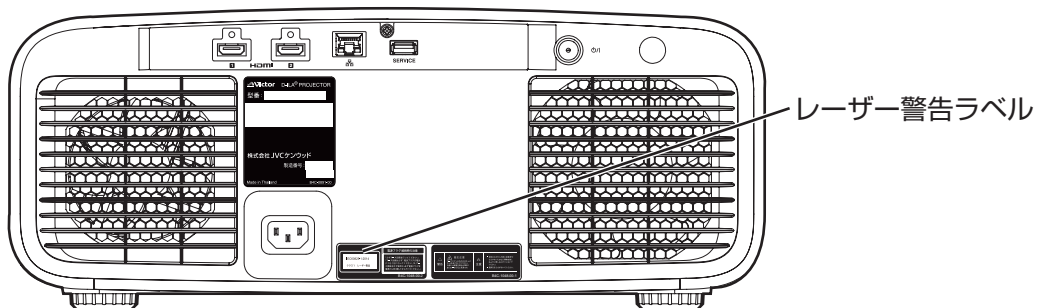


注意：使用中はレンズをのぞかないでください。

警告：記載されていない方法で制御や調整を行うと、危険なレーザー放射の被ばくをもたらします。

- ・ プロジェクターからの光線を見つめないでください。
- ・ レンズの前にいる際、リモコンでプロジェクターを起動するときは、レンズからの光線に注意してください。
- ・ レンズの前で双眼鏡や望遠鏡などの光学補助具を使用しないでください。

ラベル貼付位置



レーザー警告ラベル

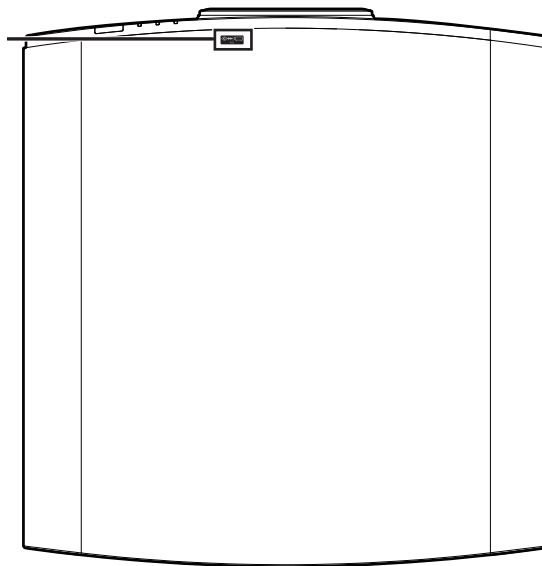
投写光について



一般的注意

- 本機の投写光は IEC62471-5:2015 に基づくリスクグループ2 (RG2) に分類されます。

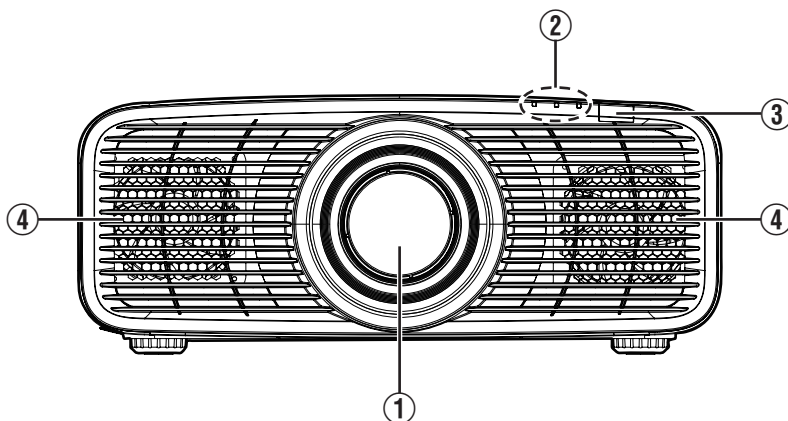
マーク位置



ほかの明るい光源と同様に、光線をのぞかないでください。
RG2 IEC 62471-5:2015

各部のなまえとはたらき

本体 - 前面



① レンズ

投写レンズです。
投写中は覗き込まないでください。

② インジケーター

詳細は「本体インジケーターの表示について」P. 81
をご覧ください。

③ リモコン受光部(前面)

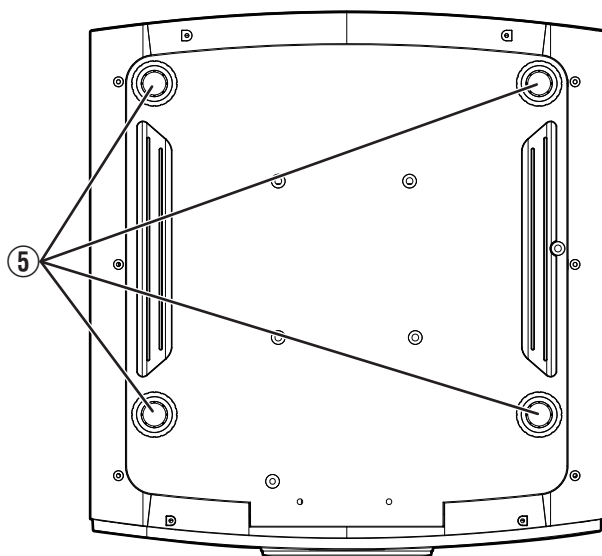
リモコンで操作するときは、リモコンをここに
向けて操作します。

※ 受光部は背面にもあります。

④ 吸気口

本体内部を冷却するために空気を取り込んでいます。
塞いだり、温風を吹き付けたりしないようにしてく
ださい。故障の原因となります。

本体 - 底面

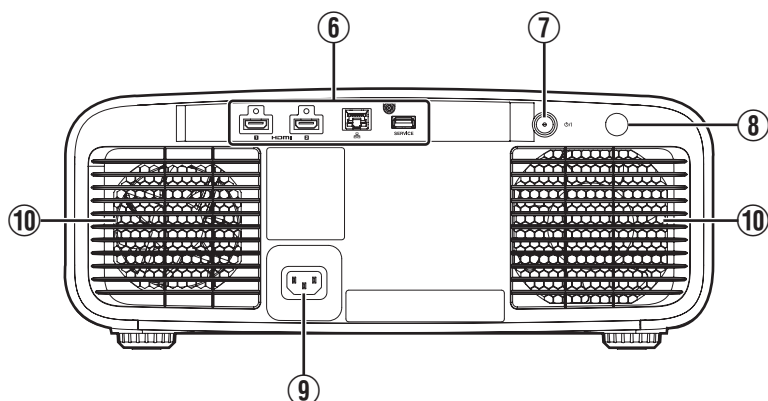


⑤ フット

回すと、高さや傾斜を調整できます。(0~10 mm)
(P. 18)

フットを取りはずすと、天吊り金具の取り付け穴になり
ます。

本体 - 背面



⑥ 入力端子

詳しくは下図「本体 - 入力端子」P. 11 をご覧ください。

⑦ 電源ボタン

電源を「入」/「切」します。(P. 22)

⑧ リモコン受光部(背面)

リモコンで操作するときは、リモコンをここにに向けて操作します。

※ 受光部は前面にもあります。

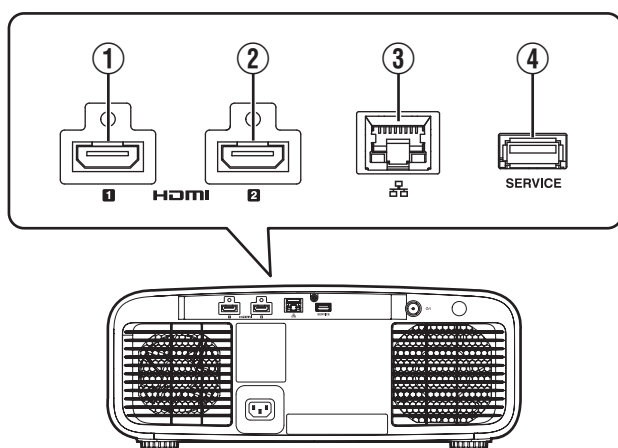
⑨ 電源入力端子

付属の電源コードを接続します。

⑩ 排気口

本体内部を冷却するために温風が出ています。排気口は塞がないでください。

本体 - 入力端子



① [HDMI 1]入力端子

② [HDMI 2]入力端子

HDMI 出力のできる機器などと接続できます。(P. 19)

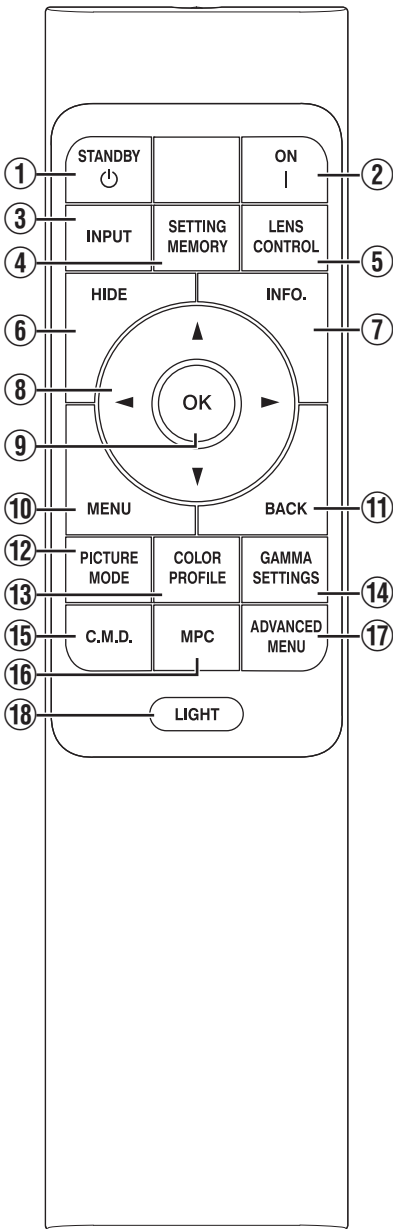
③ [LAN]端子(RJ-45)

コンピューターネットワークを経由して、外部のパーソナルコンピューター(パソコン)と接続し、制御コマンドを送ることで本機をコントロールできます。

④ [SERVICE]端子

市販の USB メモリーを使用して、ソフトウェアアップデートをするとき、または設定バックアップ機能を使用するときを使用します。

リモコン



① ① [STANDBY]

電源を切ります。(P. 23)

② ② [ON]

電源を入れます。(P. 22)

③ ③ [INPUT]

入力を[HDMI 1]、または[HDMI 2]に切り換えます。(P. 22)

④ ④ [SETTING MEMORY]

設置設定モード選択メニューを表示します。

⑤ ⑤ [LENS CONTROL]

フォーカス、ズーム、シフトを調整します。(P. 24)

- ボタンを押すごとに「フォーカス」→「ズーム」→「シフト」…の順に切り換わります。

⑥ ⑥ [HIDE]

映像を一時的に消します。(P. 22)

⑦ ⑦ [INFO.]

情報メニューを表示します。(P. 64)

⑧ ⑧ [▲▼◀▶]キー

項目を選びます。

⑨ ⑨ [OK]

項目を決定します。

⑩ ⑩ [MENU]

メニューを表示します。
表示中に押すと、メニューが消えます。

⑪ ⑪ [BACK]

前のメニューへ戻ります。

⑫ ⑫ [PICTURE MODE]

画質モード選択メニューを表示します。(P. 26)

⑬ ⑬ [COLOR PROFILE]

カラープロファイル選択メニューを表示します。(P. 27)

⑭ ⑭ [GAMMA SETTINGS]

ガンマ設定メニューを表示します。(P. 45)

⑮ ⑮ [C.M.D.]

C.M.D.選択メニューを表示します。(P. 31)

⑯ ⑯ [MPC]

MPC 設定メニューを表示します。(P. 40)

⑰ ⑰ [ADVANCED MENU]

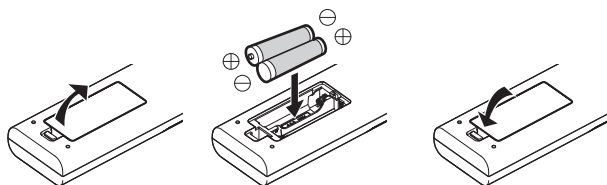
長押しすると、表示中のメニューを登録します。メニューが登録された状態で押すと、登録されているメニューを表示します。(P. 14)

⑱ ⑱ [LIGHT]

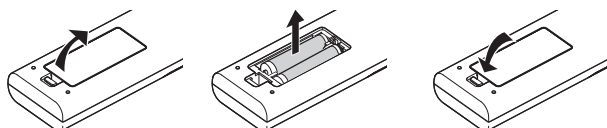
リモコンのボタンを点灯します。

リモコンへ電池を入れる

電池の入れかた



電池の取り出しかた



- リモコンの操作できる距離が短くなってきたら、電池が消耗しています。新しい電池(単4形)に交換してください。
- ⊕ ⊖ の向きを表示どおり正しく入れてください。電池を入れるときは ⊖ 側から入れてください。電池を取り出すときは ⊕ 側から取り出してください。
- リモコン使用中に不具合が生じたときは、一度電池を取り出し、5分以上経ってからもう一度電池を入れて操作してください。

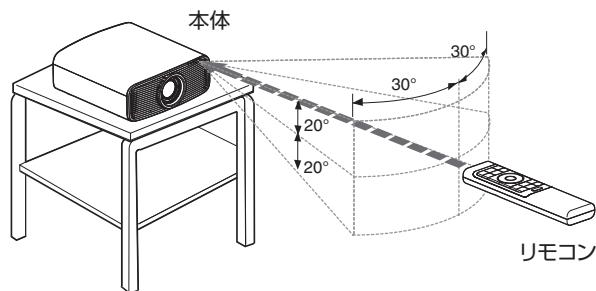
注意

- 直射日光の当たるところや高温になるところにリモコンを置かないでください。熱による変形や内部部品に悪影響を与え、火災の原因となります。
- 保管の際には電池をリモコンから取り出してください。長期間電池を入れたままにしておくと、液漏れなどを起こす原因となります。

リモコンの操作範囲

リモコン受光部(前面・背面)に対して7m以内でお使いください。

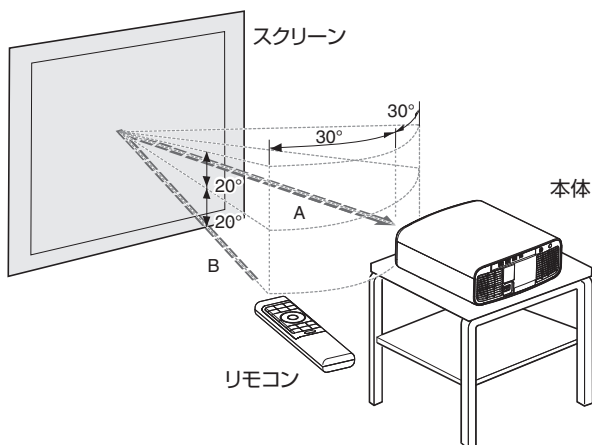
操作できないときは、近づけてください。



スクリーンなどに反射させて使う場合

本体とスクリーンの距離Aとリモコンとスクリーンの距離Bの合計が7m以内になるようにしてください。

※ ご使用になるスクリーンの種類によって、リモコン信号の反射する効率が異なるため、操作できる距離が短くなることがあります。



メニュー

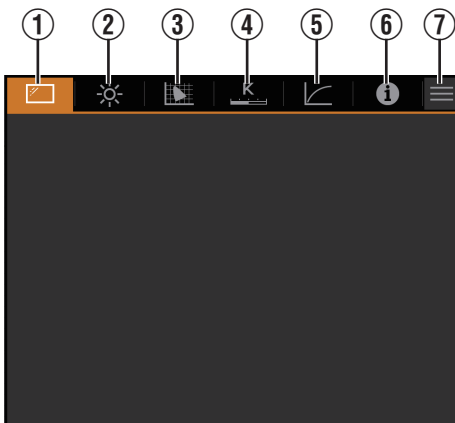
リモコンの[MENU]ボタンを押すと、メニューが表示されます。

メニューには「画像設定」「HDMI 設定」「設置設定」の 3 種類の設定メニューがあり、右上の「設定メニュー選択」から切り替えることができます。

MEMO

- メニューを表示中にリモコンの[ADVANCED MENU]ボタンを長押しすると、表示中のメニューを[ADVANCED MENU]ボタンに登録することができます。メニューが登録された状態で[ADVANCED MENU]ボタンを押すと、登録されているメニューが表示されます。

画像設定メニュー



① モード設定



② 画質調整



③ カラープロファイル



④ 色温度



⑤ ガンマ

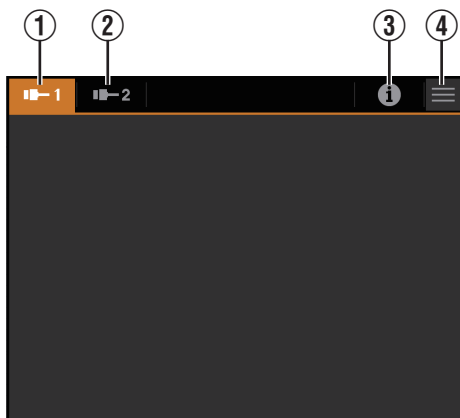


⑥ 情報



⑦ 設定メニュー選択

HDMI 設定メニュー



① HDMI 1 設定



② HDMI 2 設定

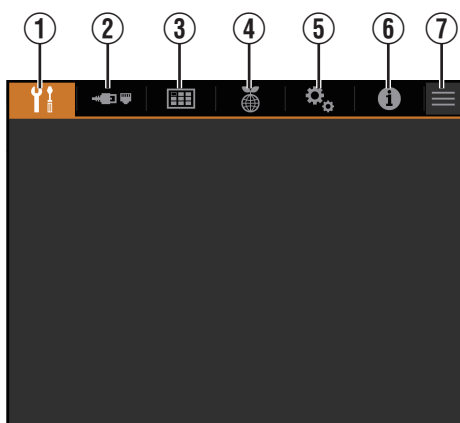


③ 情報



④ 設定メニュー選択

設置設定メニュー



① 設置設定



② ネットワーク設定



③ 表示設定



④ ECO 設定



⑤ システム設定



⑥ 情報



⑦ 設定メニュー選択

設置する

設置するときの注意

本機を設置するときは、次のことをよくお読みいただき設置してください。

持ち運びするとき

本機を運ぶときは落下にご注意ください。けがや破損の原因となります。

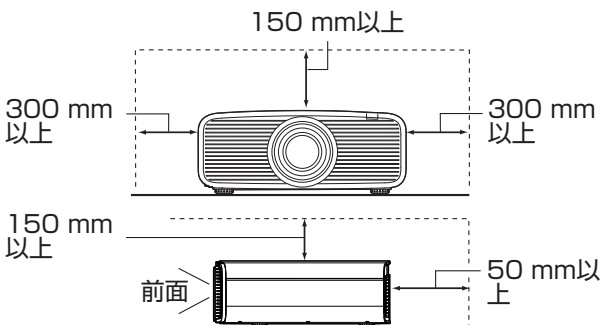
次のような場所で使わない

本機は精密機器ですので、次のような場所での設置や使用はおやめください。火災や故障の原因となることがあります。

- 水や湿気、ほこりの多いところ
 - 油煙やたばこの煙のあたるところ
 - じゅうたんや布団などの柔らかいものの上
 - 直射日光があたるところ
 - 高温・低温のところ
 - 煙草の煙や油気がある部屋に設置しない。微量の煙や油気でも長い間に影響があります。
- ※ 本機は放熱のため、大量の吸気により光学部の冷却を行なっています。上記のような場所でのご使用は、光路に汚れが付着し映像が暗くなる、発色が悪化するなどの原因にもなります。
- ※ 光学部品に付着した汚れは、除去することができません。

壁などから間隔をあける

放熱をよくするため、周囲は下図のように十分なスペースを空けて設置してください。

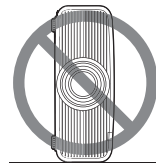


前面(吸気口前)は開放してください。前面に遮蔽物があると本体内部の温度が高くなり、画質や性能に影響が出たり、故障の原因となることがあります。

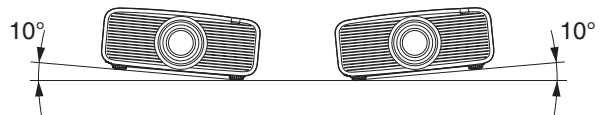
お使いになるとき

ご使用になるときは、次のような投写はおやめください。火災や故障の原因となることがあります。

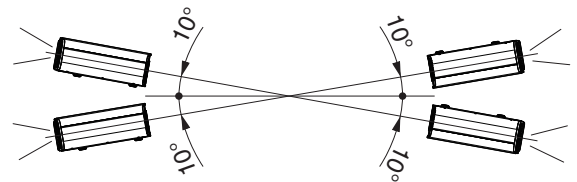
- 立てて投写しない



- 傾けて投写しない
左右方向: $\pm 10^\circ$ 以内



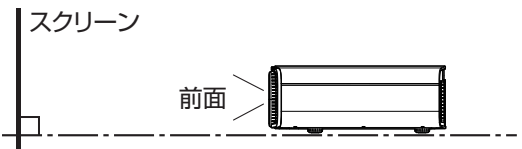
- 傾けて投写しない
上下方向: $\pm 10^\circ$ 以内



- 上記以外の角度の設置は故障の原因となります。

スクリーンの設置

本機とスクリーンは垂直になるように設置してください。



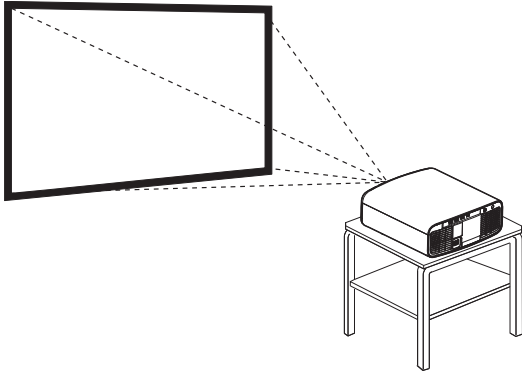
- スクリーンは生地が不均一のものをお選びください。格子縞のように均一なものの場合、干渉縞を発生させることがあります。
- 干渉縞が発生した場合、画面の大きさを変えて、目立たないようにする方法があります。

高地でお使いになるときに

標高の高い(気圧の低い)場所(海拔 900 m 以上)で使用するときは、「高地モード」機能を「オン」にしてください。(P. 62)

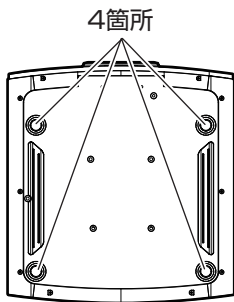
固定するときのご注意

固定するとき(据置き)



- 据置きで使用する場合は、本機が水平になるよう設置してください。
- 地震が発生したときなどの事故防止のために必ず本体を固定してください。

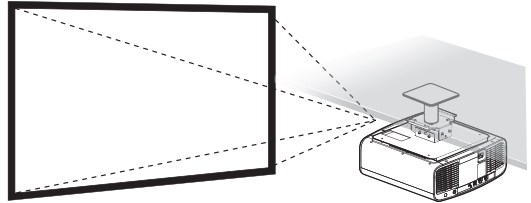
ネジでの固定方法



底面のフット 4 個をはずし、ネジ(M5 ネジ 20~25 mm)で止める。

※ 指定以外のネジを使用した場合、故障の原因となります。

固定するとき(天吊り)



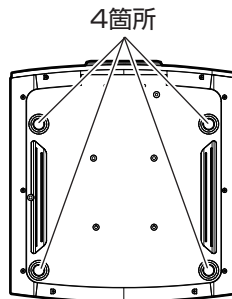
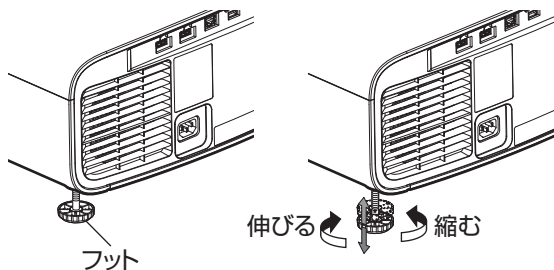
- 落下してケガの原因となりますので、お客様による設置は絶対に行わず、必ず販売店にご依頼ください。
- 地震が発生したときなどの事故防止に必ず落下防止の処置をしてください。
- 当社以外の天吊り金具ならびに天吊り設置環境の不具合による製品の損傷などについては、保証期間中であっても当社は責任を負いかねますのでご注意ください。
- 天井に吊り下げて使用するときは、本機周辺の温度に気をつけてください。暖房を使用した場合、天井付近は予想以上に高温になりますのでご注意ください。
- 本機を天吊り金具に取付ける場合、トルクは、 $1.5\text{N}\cdot\text{m}$ ~ $2.0\text{N}\cdot\text{m}$ の範囲に設定してください。これ以上のトルクで締め付けると製品損傷により落下につながる危険性があります。
- 旧モデルで使っていた天吊り金具を再度利用する際は、重量増や周辺スペースに問題ないか含めて専門業者にご依頼・ご相談ください。

位置調整のしかた

本機の傾きを調節する(上下角の調整のしかた)

フットを回すと、本機の高さと傾斜を調整できます。
本機を持ち上げて、4つのフットで調整します。

※ 10mm 以上は引き出さないでください。フットが脱落するおそれがあります。



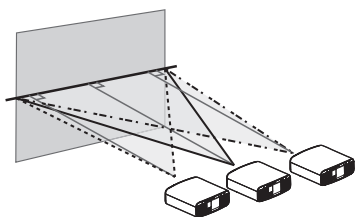
映像の位置を調節する

本機はレンズシフト機能を使って、映像を上下・左右に動かすことができます。お好みのポジションに調節してください。

➔ 「投写箇所に合わせてレンズを調整する」(P. 24)

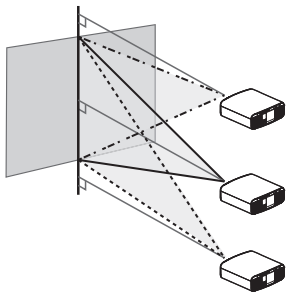
左右の位置

上下の位置は 0%(中央)
投写映像の最大約 28% ※

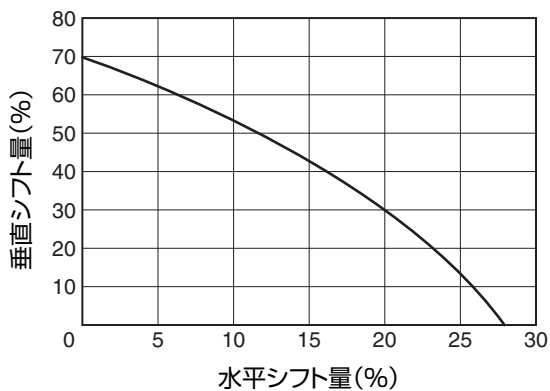


上下の位置

左右の位置は 0%(中央)
投写映像の最大約 70% ※



レンズシフトの移動範囲(16:9)



- 水平シフト量により、垂直の最大シフト量が変わります。また、垂直シフト量により、水平の最大シフト量が変わります。
- グラフ中の数値はあくまでも目安です。設置するときの参考としてご利用ください。

※ 16:9 時

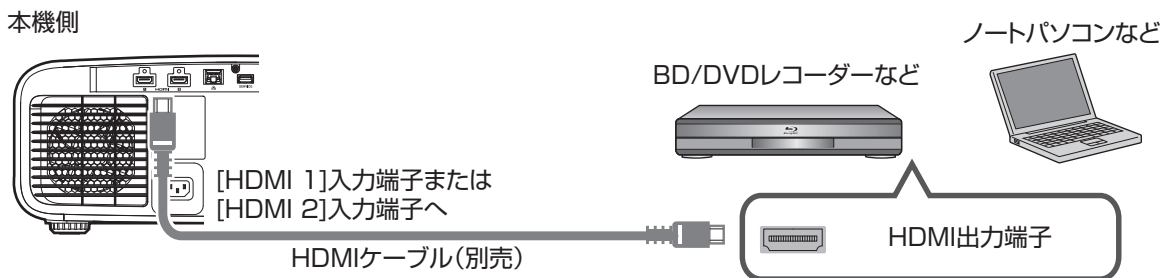
接続する

- 接続が終わるまで、電源を入れないでください。
- 各機器の電源を切った状態でケーブルを接続してください。電源が入った状態で接続すると故障の原因となります。
- ケーブル接続作業は、手のひら全体で壁にさわるなどを行うことで身体の帯電を除去した状態で行ってください。
- ご使用の機器によって接続のしかたが異なります。接続する機器の取扱説明書をご覧ください。
- 本機は映像を投写するものです。接続する機器の音声出力は、ほかのアンプやスピーカーなど音声出力機器に接続してください。
- 本機はオーディオパススルーや eARC には対応していません。
- 接続する機器やケーブル、コードによっては、映像が表示されない場合があります。HDMI ケーブル(別売)は規格認証されたウルトラハイスピード HDMI ケーブル(48Gbps 対応)をご使用ください。
- 接続するケーブルやコードの端子カバーのサイズによっては、接続ができない場合があります。

準備

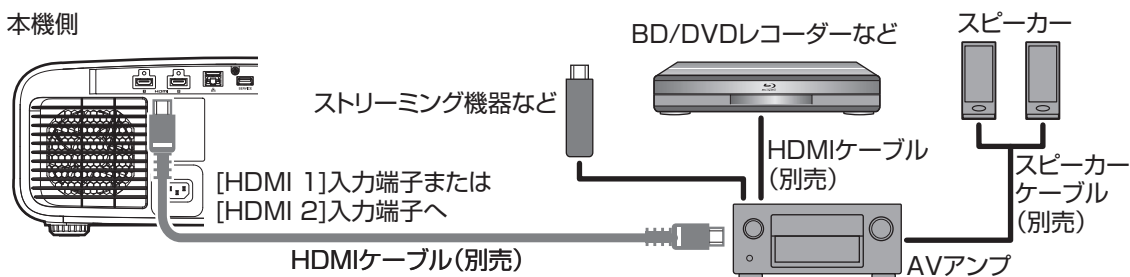
HDMI 入力端子とつなぐ(デジタル入力)

HDMI ケーブルでつなぐ



- ノイズが出る場合は、ノートパソコンなどを本機からはなしてください。

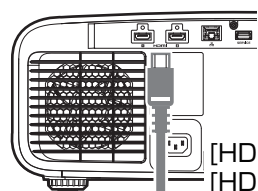
AV アンプを介してつなぐ



- ソース機器から AV アンプや分配器など中間機器をとおして接続している場合、中間機器の仕様によって映像が表示されないことがあります。その場合、ソース機器とプロジェクターを直接接続し、映像が表示されるか確認してください。

HDMI-DisplayPort 変換ケーブルでつなぐ

本機側



[HDMI 1]入力端子または
[HDMI 2]入力端子へ

HDMI-DisplayPort変換ケーブル(別売)

デスクトップパソコンなど

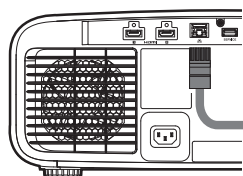


DisplayPort端子

- ノイズが出る場合は、デスクトップパソコンなどを本機からはなしてください。
- 映像が表示されない場合はケーブル長さを短くするか、映像の解像度を送信側機器で下げることをおすすめします。

LAN 端子とつなぐ

本機側



[LAN]端子へ

接続ケーブル(別売)

デスクトップパソコンなど



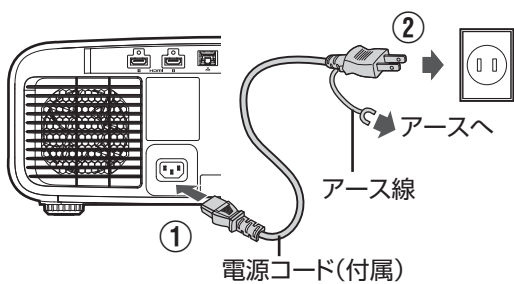
ネットワーク



サーバー

- ネットワークは本機の制御用に使用します。映像信号の送受信をするものではありません。
- ネットワークへの接続は、ネットワーク管理者にご相談ください。
- 待機時に LAN 通信を使用する場合は「ECO Mode」を「オフ」に設定してください。(P. 61)
- 制御については、「外部制御」P. 72 をご確認ください。

電源コード(付属品)をつなぐ



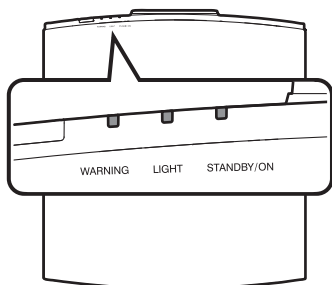
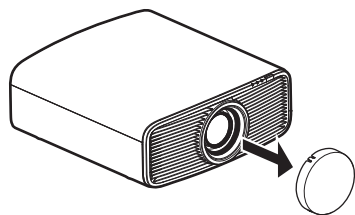
- ① 本体の電源入力端子に付属の電源コードを接続する
- ② アース線を建物に備えられているアース端子に接続し、付属の電源コードのプラグを壁のコンセントに差し込む

- アース線の接続は、必ず電源プラグをコンセントにつなぐ前に行なってください。また、アース線の接続をはずす場合は、必ず電源プラグをコンセントからはずして行ってください。

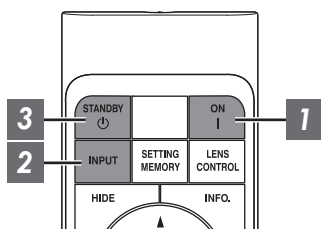
📣 火災・感電防止の注意

- 機器を使用しないときは、機器の電源コードをコンセントから抜いてください。
- 付属の電源コード以外では、接続しないでください。
- 表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。
- 電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。また、重いものをのせたり、加熱したり、引っ張ったりしないでください。電源コードが破損します。
- 濡れた手でプラグを抜き差ししないでください。

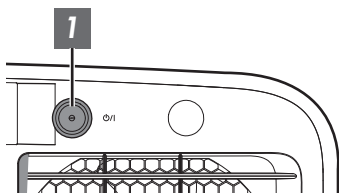
映像をみる



リモコン



本体



MEMO

- 必ずレンズカバーをはずしてください。
- 電源コードを接続して、「STANDBY/ON」インジケータが赤色に点灯していることを確認してください。
- 「ECO Mode」で待機状態になっている場合は、電源コードを正しく接続していても「STANDBY/ON」インジケータは点灯しません。リモコンのいずれかのボタンを一度押して待機状態を解除するか、電源を入れるときに本体の ϕ /I ボタンを使用してください。

1 電源を入れる

リモコン: I [ON] ボタンを押す

本体: ϕ /I ボタンを押す

- 「STANDBY/ON」インジケータが赤色(「ECO Mode」で待機状態だった場合は消灯)から緑色に変わります(起動後は消灯します)。

「STANDBY/ON」点灯(赤)
スタンバイ状態のとき



「STANDBY/ON」点灯(緑)
光源起動中のとき



「STANDBY/ON」消灯
「ECO Mode」のとき



2 投写する映像を選ぶ

リモコン: [INPUT] ボタンを押して、入力を切り換える

- 選んだ機器を再生して、映像を投写します。

映像を一時的に消すには

リモコンの[HIDE]ボタンを押す

- 「STANDBY/ON」インジケータが緑色の点滅に変わります。
- [HIDE]ボタンをもう一度押すと、映像が表示されます。
- 映像を一時的に消しているときは、電源を切ることができません。
- 「ハイドモード」が「オン」のときは映像を一時的に消しているときに光源が消灯します。

3 電源を切る

リモコン:  [STANDBY]ボタンを押す

本体:  ボタンを押す

- 「電源を切りますか?」のメッセージが表示されている間に、もう一度ボタンを押します。
- LD ブロックが消灯し、「STANDBY/ON」インジケータが緑色から赤色の点滅に変わります。
- LD ブロック冷却のため、消灯後約 10 秒間ファンが回ります(クールダウンモード)。冷却中は、電源ケーブルを抜かないでください。
- 本体設定によっては、内部処理のため、30 秒程度冷却時間が延びる場合があります。
- 冷却が終わると、「STANDBY/ON」インジケータが赤色の点滅から点灯に変わります。

「STANDBY/ON」点滅(赤)
クールダウンモードのとき



「STANDBY/ON」点灯(赤)
スタンバイ状態のとき



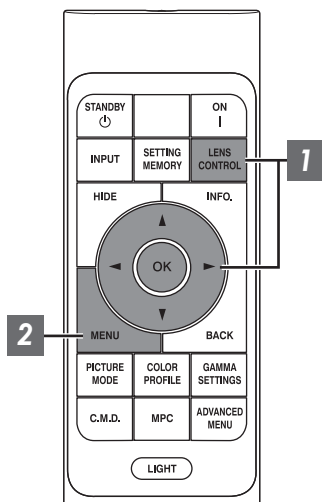
注意

- 冷却中は、電源の再投入はできません。
- 長時間使用しないときは、電源プラグを抜いてください。
- インジケータの表示が記載と異なる場合には、「本体インジケータの表示について」P. 81 の内容をご確認ください。

投写画面を調整する

投写箇所に合わせてレンズを調整する

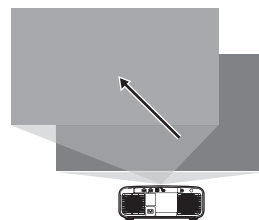
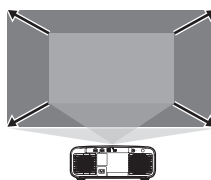
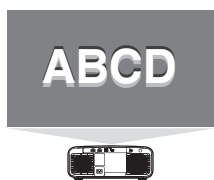
操作



1 [LENS CONTROL]ボタンを押し、[▲▼◀▶]キーでフォーカス(焦点)、ズーム(画面サイズ)、シフト(画面位置)を調整する



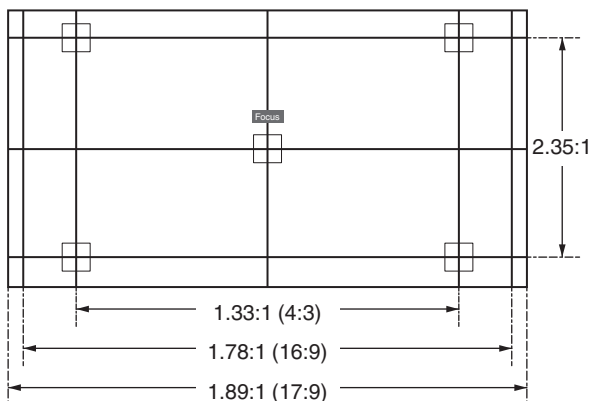
- [LENS CONTROL]ボタンまたは[OK]ボタンを押すごとに「フォーカス」→「ズーム」→「シフト」→「フォーカス」…の順に切り換わります。
- レンズロックが「オン」のときは、レンズコントロール機能が操作できません。(P. 52)



フォーカス(焦点)調整 ズーム(画面サイズ)調整 シフト(画面位置)調整

2 [MENU]ボタン、または[BACK]ボタンを押して、調整を終了する

調整画面で表示される調整用パターン



調整用パターンの各アスペクト比の画角を参考にして調整してください。

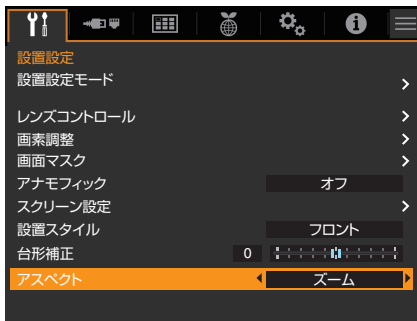
※「イメージパターン」を「オフ」に設定した場合は表示されません。

画面サイズ(アスペクト)を調整する

入力されたオリジナルの画面サイズ(アスペクト)に対して、投写する映像の画面サイズを最適に設定できます。

1 [MENU]ボタンを押して、メニューを表示する

2 メニューの「設置」→「アスペクト」を選び、設定値を選択して[OK]を押す



設定値	内容
ズーム	入力された映像の縦横比を保ったまま、水平方向が最大に表示されるまで拡大して表示します。 垂直方向にはみ出た映像は表示されません。
オート	入力された映像の縦横比を保ったまま、水平方向または垂直方向が最大に表示されるまで拡大して表示します。
ネイティブ	入力された映像の画面サイズが 1920×1080 以下の場合、または 2048×1080 の場合は、映像を縦横それぞれ 2 倍に拡大して中央に表示します。 入力された映像の画面サイズが 1920×1080 より大きな場合(2048×1080 を除く)は、そのまま中央に表示します。

3 [MENU]ボタンを押して、終了する

※「画質モード」が「FILMMAKER MODE」のときは「アスペクト」は「オート」固定となります。

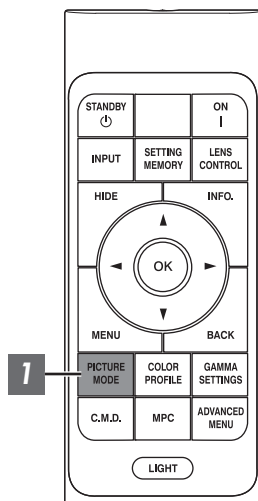
入力映像と画面サイズの例

設定値 入力映像 サイズ	ズーム	オート	ネイティブ
720×480			
1920×1080			

画質を調整する

画質モードを設定する

視聴する映像の種類に合わせて画質を調整します。



1 [PICTURE MODE]ボタンを押し、[▲▼]キーで「画質モード」を選んで[OK]を押し

- [MENU]ボタンを押ししてメニューを表示し、「画像設定」→「モード設定」→「画質モード」からも設定できます。

入力映像	選択できる画質モード	内容
SDR	ナチュラル	自然な色彩・階調を重視した画質で、ドラマなどのビデオ素材の鑑賞に適しています。
	シネマ	鮮やかな色彩を活かした画質で、映画全般の鑑賞に適しています。
	ビビッド	明るく豊かな色彩と鮮明な画質です。リビングルームなど少し明るい環境で鑑賞する場合に適しています。
	FILMMAKER MODE	UHD Alliance 規格の FILMMAKER MODE™に対応した画質モードです。
	SDR 1, SDR 2	お好みに応じて調整した画質データの保存・呼出ができます。
HDR10+	HDR10+	HDR10+ コンテンツの鑑賞に適した画質モードです。ダイナミックメタデータに従ってシーンごとに最適なトーンマッピングを行うことで、映像制作者の意図する HDR 映像を忠実に再現します。
HDR10	Frame Adapt HDR 1	HDR10 コンテンツのフレーム毎の明るさを解析し、自動的に調整する画質モードです。自然な色彩・階調を重視した画質で、ドラマなどのビデオ素材の鑑賞に適しています。
	Frame Adapt HDR 2	HDR10 コンテンツのフレーム毎の明るさを解析し、自動的に調整する画質モードです。鮮やかな色彩を活かした画質で、映画全般の鑑賞に適しています。
	FILMMAKER MODE	UHD Alliance 規格の FILMMAKER MODE™に対応した画質モードです。
	HDR 1, HDR 2	お好みに応じて調整した画質データの保存・呼出ができます。
HLG	HLG	HLG 放送用の HDR 規格である、Hybrid Log-Gamma コンテンツの鑑賞に適した画質設定です。

MEMO

「画像設定」→「画質調整」から、さらに詳細な設定をすることができます。

カラープロファイルを設定する

「画質モード」に対応した「カラープロファイル」(色空間情報)を設定すると、さらに鑑賞する映像作品に最適な画質に調整できます。

※「画質モード」が「HDR10+」のときは、BT.2020(ノーマル)固定となります。

1 「画質モード」を設定(P. 26)したあとに、[COLOR PROFILE]ボタンを押し、[▲▼]キーで「カラープロファイル」を選んで[OK]を押し

- [MENU]ボタンを押してメニューを表示し、「画像設定」→「モード設定」→「カラープロファイル」からも設定できます。
- 「画質モード」によって、選択可能な「カラープロファイル」の設定値は異なります。

「カラープロファイル」の内容

カラープロファイル	内容
オート	入力されるコンテンツの色域情報を元に、自動でカラープロファイルを切り替えます。※1
BT.709	BT.709の色域に適した色空間となります。
BT.2020(ワイド) Z7	BT.2020の色域に適した色空間となります。シネマフィルターをワイドに設定します。※2
BT.2020(ノーマル) Z7 BT.2020 Z5	BT.2020の色域に適した色空間となります。シネマフィルターをノーマルに設定します。※2
DCI	DCIの色域に適した色空間となります。
Video	ドラマやライブ映像などのビデオ素材を明るく色鮮やかに再現する色域となります。
アニメ Z7	CGアニメに適した色空間となります。明るい色彩のアニメに向いています。
シネマ	明るさアップと色鮮やかさを両立させた映画向け色域となります。
オフ(ワイド) Z7	色空間調整を行わないモードです。シネマフィルターをワイドに設定します。※2
オフ(ノーマル) Z7 オフ Z5	色空間調整を行わないモードです。シネマフィルターをノーマルに設定します。※2
ビビッド	明るく豊かな色彩です。リビングルームなど少し明るい環境で鑑賞する場合に適しています。
Custom1~Custom4	プロジェクターキャリブレーションソフトウェアで作成したカラープロファイルデータを保存します。

※1 信号が入力されていない場合や、入力信号に含まれる色域情報が対応外の場合、表示できない信号が入力された場合は、「オート」の文字が黄色で表示されます。

※2 シネマフィルターのノーマルは明るさを重視した設定で、ビデオコンテンツやピーク感のある映画などに最適です。
シネマフィルターのワイドは色再現性を重視した設定で、HDRならではの広色域をお楽しみいただけます。映画コンテンツ全般におすすめです。 **Z7**

「画質モード」によって選択可能な「カラープロファイル」一覧

画質モード	カラープロファイル
ナチュラル	オート
	BT.709
	BT.2020(ワイド) Z7
	BT.2020(ノーマル) Z7
	BT.2020 Z5
	DCI
	Video
	アニメ Z7
	シネマ
シネマ	BT.709
	BT.2020(ワイド) Z7
	BT.2020(ノーマル) Z7
	BT.2020 Z5
	DCI
	Video
	アニメ Z7
	シネマ
	Frame Adapt HDR 1
BT.2020(ノーマル) Z7	
BT.2020 Z5	
Frame Adapt HDR 2	BT.2020(ワイド) Z7
	BT.2020(ノーマル) Z7
	BT.2020 Z5
ビビッド	ビビッド
FILMMAKER MODE (SDR 信号入力時)	オート
FILMMAKER MODE (HDR 信号入力時)	BT.2020(ワイド) Z7
	BT.2020(ノーマル) Z7
	BT.2020 Z5
HDR10+	BT.2020(ノーマル) Z7
	BT.2020 Z5
HLG	オート
	BT.709
	BT.2020(ワイド) Z7
	BT.2020(ノーマル) Z7
	BT.2020 Z5
	DCI

次ページに続く

画質モード	カラープロファイル
SDR 1、SDR 2	オート
	BT.709
	BT.2020(ワイド) Z7
	BT.2020(ノーマル) Z7
	BT.2020 Z5
	DCI
	Video
	アニメ Z7
	シネマ
	オフ(ワイド) Z7
	オフ(ノーマル) Z7
	オフ Z5
	Custom1～Custom4
	HDR 1、HDR 2
BT.709	
BT.2020(ワイド) Z7	
BT.2020(ノーマル) Z7	
BT.2020 Z5	
DCI	
オフ(ワイド) Z7	
オフ(ノーマル) Z7	
オフ Z5	
Custom1～Custom4	

※「画質モード」が「HDR10+」のときは、「カラープロファイル」は BT.2020(ノーマル)固定となり、カラープロファイル機能は使用できません。

MEMO

「画像設定」→「カラープロファイル」から、さらに詳細な設定をすることができます。

投写される映像の出力値を調整する(ガンマ/トーンマップ)

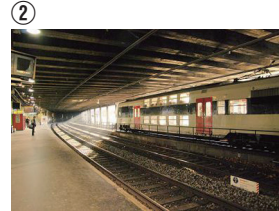
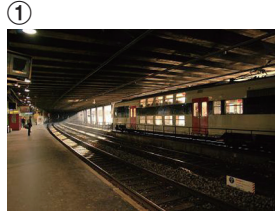
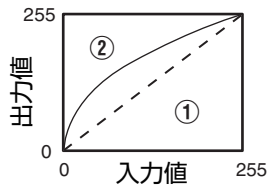
入力した映像信号に対し、投写される映像の出力値を調整します。

※ HDR 信号入力時で「画質モード」が「Frame Adapt HDR 1」/「Frame Adapt HDR 2」/「FILMMAKER MODE」のときは、使用できません。

※ 「画質モード」が「HDR10+」のときは、使用できません。

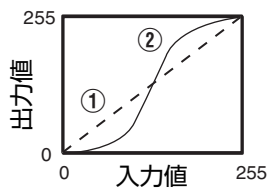
ガンマ調整の例

元の映像に対して、全体的に明るくなり、暗い部分が見やすくなります。



写真はイメージです。

元の映像に対して、コントラストが増し、奥行き感のある映像になります。



写真はイメージです。

調整・設定

1 [MENU]ボタンを押してメニューを表示し、「画像設定」→「モード設定」を表示する

2 「ガンマ/トーンマップ」から設定したい「ガンマ/トーンマップ」を選ぶ

• 「画質モード」によって、選択可能な「ガンマ/トーンマップ」の設定値は異なります。

「ガンマ/トーンマップ」の内容

ガンマ/トーンマップ	内容
2.2	ガンマがそれぞれ「2.2」、「2.4」、「2.6」になります。
2.4	
2.6	
シネマ 1	階調を重視した映像になります。
シネマ 2	コントラストを重視した映像になります。
ビビッド	「画質モード」を「ビビッド」に設定して視聴するときに適したガンマ設定です。
HDR(オート)	「HDR(PQ)」をベースとして、Max CLL/Max FALL の値から「ピクチャートーン」「暗部補正」「明部補正」を自動で補正します。
HDR(PQ)	UHDBD(HDR10)などの HDR コンテンツの視聴に適した映像になります。
HDR(HLG)	HDR 放送などの HDR コンテンツの視聴に適した映像になります。
Custom 1～Custom 3	お好みでより細かなガンマ調整ができます。

「画質モード」によって選択可能な「ガンマ/トーンマップ」一覧

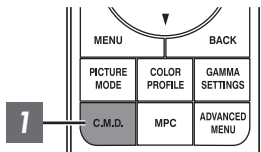
画質モード	ガンマ/トーンマップ
ビビッド	ビビッド、Custom 1～Custom 3
シネマ ナチュラル SDR 1、SDR 2	2.2
	2.4
	2.6
	シネマ 1
	シネマ 2
	Custom 1～Custom 3
HLG	HDR(HLG)
	Custom 1～Custom 3
HDR 1、HDR 2	HDR(PQ)
	Custom 1～Custom 3

MEMO

「画像設定」→「ガンマ/トーンマップ」から、さらに詳細な設定をすることができます。

動きの早い映像の残像を低減する(C.M.D.)

動きの速いシーンで発生する残像感を低減させます。



1 [C.M.D.]ボタンを押し、[▲▼]キーで設定値を選んで[OK]を押す

- [MENU]ボタンを押してメニューを表示し、「モード設定」→「Clear Motion Drive」からも設定できます。

設定値	内容
オフ	動画ボケの改善機能をオフにします。
低	黒挿入することで動画ボケを少し低減します。
高	黒挿入することで動画ボケを最大限に低減します。

※ C.M.D.とは、Clear Motion Drive の略称です。

※ 「画質モード」が「FILMMAKER MODE」、「HDR10+」のときは設定できません。

※ 入力信号が 60Hz 以外の場合は設定できません。

※ 「低」または「高」の場合、「オフ」よりも映像が暗くなります。




メニューで行う調整と設定

[MENU]ボタンを押すと、メニューが表示されます。

[▲▼◀▶]キーを押して項目を選び、[OK]ボタンで決定します。





メニュー項目一覧

画像設定

 モード設定	P. 36
画質モード	P. 26
カラープロファイル	P. 27
色温度	P. 36
ガンマ/トーンマップ	P. 30
HDR 設定	P. 38
HDR Processing	P. 38
HDR Level	P. 38
Deep Black	P. 39
MPC	P. 40
グラフィックモード	P. 40
エンハンス	P. 40
スムージング	P. 40
リセット	P. 40
Clear Motion Drive	P. 31
リセット	-
 画質調整	P. 41
画質モード	P. 26
LD パワー	P. 41
ダイナミックコントロール	P. 41
アパーチャー	P. 41
コントラスト	P. 41
明るさ	P. 41
色のこさ	P. 41
色あい	P. 41
ユーザー名編集	P. 42
 カラープロファイル	P. 43
カラープロファイル	P. 27
カラーマネージメント	P. 43
色選択	P. 43
色相	P. 43
彩度	P. 43
明るさ	P. 43
リセット	-

K 色温度	P. 44
色温度	P. 36
補正值	P. 44
ゲイン 赤	P. 44
ゲイン 緑	P. 44
ゲイン 青	P. 44
オフセット 赤	P. 44
オフセット 緑	P. 44
オフセット 青	P. 44
リセット	-
L ガンマ/トーンマップ	P. 45
ガンマ/トーンマップ	P. 30
補正值	P. 45
色選択	P. 45
ピクチャートーン	P. 45
暗部補正	P. 45
明部補正	P. 45
リセット	-
情報	P. 64
HDMI 設定	
1 HDMI 1 設定 / 2 HDMI 2 設定	P. 48
入力	P. 48
カラースペース	P. 48
自動画質モード設定	P. 48
SDR	P. 48
HDR10	P. 49
HDR10+	P. 49
FILMMAKER MODE	P. 49
映像タイプ	P. 50
HDMI フォーマット設定	P. 50

設置設定モード	P. 51
ロード	P. 51
セーブ	P. 51
モード名編集	P. 51
レンズコントロール	P. 52
フォーカス	P. 24
ズーム	P. 24
シフト	P. 24
イメージパターン	P. 52
ロック	P. 52
レンズセンター	P. 52
画素調整	P. 53
調整	P. 53
調整エリア	P. 53
調整色	P. 53
調整パターン	P. 53
調整パターン色	P. 53
調整 (画素)	P. 53
ファイン	P. 53
リセット	P. 53
画面マスク	P. 57
画面マスク	P. 57
上	P. 57
下	P. 57
左	P. 57
右	P. 57
アナモフィック	P. 57
スクリーン設定	P. 58
スクリーン補正	P. 58
スクリーン No.	P. 58
スクリーンアスペクト	P. 58
設置スタイル	P. 58
台形補正	P. 58
アスペクト	P. 58

 ネットワーク設定	P. 59
 表示設定	P. 60
バックカラー	P. 60
メニュー位置	P. 60
入力情報	P. 60
ロゴ	P. 60
言語	P. 60
 ECO 設定	P. 61
オフタイマー	P. 61
ECO Mode	P. 61
ハイドモード	P. 61
 システム設定	P. 62
リモコンコード	P. 62
高地モード	P. 62
設定バックアップ	P. 62
設定エクスポート	P. 63
設定インポート	P. 63
オールリセット	P. 63
ソフトウェア アップデート	P. 63


画像設定

モード設定

画質モード

視聴する映像の種類に合わせて画質を調整します。

▶ 「画質モードを設定する」(P. 26)

「画質調整」タブでさらに詳細な設定を行うことができます。「 画質調整」P. 41

カラープロファイル


設定した「画質調整」に対応した「カラープロファイル」を設定します。

▶ 「カラープロファイルを設定する」(P. 27)

「カラープロファイル」タブでさらに詳細な設定を行うことができます。「 カラープロファイル」P. 43

色温度



設定した「画質調整」に対応した「色温度」を設定します。

「色温度」タブでさらに詳細な設定を行うことができます。「 色温度」P. 44

・ 「画質モード」によって、設定可能な「色温度」は異なります。

※ 「カラープロファイル」が「オフ(ワイド)/オフ(ノーマル)」のときは、「明るさ優先」固定になります。

「色温度」の内容

色温度	内容
Xenon1 	映画館で使用されているキセノンランプの特性を再現する色温度にします。 ・ Xenon1: フィルム映写機で出力される光源色 ・ Xenon2: デジタルシネマ用プロジェクターで出力される光源色
Xenon2 	
5500K	高い値になると青みがかった映像に、低い値になると赤みがかった映像になります。
6500K	
7500K	
9300K	
明るさ優先	明るさを優先した色温度になります。
HDR10+	HDR10+ コンテンツの視聴に適した色温度となります。
HDR10	HDR10 コンテンツの視聴に適した色温度となります。初期設定は 6500K です。
HLG	HLG コンテンツの視聴に適した色温度となります。初期設定は 6500K です。
Custom 1~Custom 2	映像の色温度を調整して、それぞれに保存できます。


「画質モード」によって選択可能な「色温度」一覧

画質モード	色温度
ナチュラル ビビッド SDR 1、SDR 2	5500K
	6500K
	7500K
	9300K
	明るさ優先
	Custom 1～Custom 2
シネマ	5500K
	6500K
	7500K
	9300K
	Xenon1 Z7
	Xenon2 Z7
	明るさ優先
	Custom 1～Custom 2
Frame Adapt HDR 1 Frame Adapt HDR 2 HDR 1、HDR 2	5500K
	6500K
	7500K
	9300K
	明るさ優先
	HDR10
	Custom 1～Custom 2
FILMMAKER MODE	6500K
HDR10+	HDR10+
HLG	5500K
	6500K
	7500K
	9300K
	明るさ優先
	HLG
	Custom 1～Custom 2

ガンマ/トーンマップ

設定した「画質モード」に対応した「ガンマ/トーンマップ」(入力した映像信号に対し、投写される映像の出力値)を調整します。

➔ 「投写される映像の出力値を調整する(ガンマ/トーンマップ)」(P. 30)

「ガンマ/トーンマップ」タブでさらに詳細な設定を行うことができます。「 ガンマ/トーンマップ」P. 45

HDR 設定

HDR 映像の画質調整機能の設定を行います。

※ 入力信号が SDR、HLG 信号のときは、使用できません。

※ 入力信号が HDR 信号で、「画質モード」が「HDR 1」、「HDR 2」のときは使用できません。

HDR Processing

「トーンマップ」でのコンテンツの解析方法を設定する機能です。

※ 「画質モード」が「HDR10+」のときは「HDR Processing」は「HDR10+」固定となります。「HDR10+」は画質モードが「HDR10+」の場合のみ使用します。

設定	内容
フレーム	フレームごとにピーク輝度の解析を行い、映像の明るさを調整します。
シーン	シーンごとにピーク輝度の解析を行い、映像の明るさを調整します。
固定	コンテンツのマスタリング情報(MaxCLL/FALL)を元に設定し、動的な調整を行いません。
HDR10+	HDR10+の画像情報を元に、シーンごとに明るさを調整します。*2

HDR Level

トーンマップでの全体の明るさレベルを調整する機能です。

「画質モード」が「Frame Adapt HDR 1」、「Frame Adapt HDR 2」、「FILMMAKER MODE」のとき

設定	内容
オート(ノーマル)	コンテンツのマスタリング情報(MaxCLL/DML)をもとに、適切なトーンマップを自動的に選択します。
オート(ワイド)	コンテンツのマスタリング情報(MaxCLL/DML)をもとに、適切なトーンマップを自動的に選択します。「オート(ノーマル)」と比較して、より明るくなる方向に切り替えます。
-2	クリップポイント 600nits のトーンマップで表示します。
-1	クリップポイント 400nits のトーンマップで表示します。
0	クリップポイント 300nits のトーンマップで表示します。
1	クリップポイント 200nits のトーンマップで表示します。
2	クリップポイント 150nits のトーンマップで表示します。

「画質モード」が「HDR10+」のとき

設定	内容
高	全体の明るさレベルを高く設定したトーンマップで表示します。画面サイズが大きい場合に適しています。
中	全体の明るさレベルを中程度に設定したトーンマップで表示します。画面サイズが中程度の場合に適しています。
低	全体の明るさレベルを低く設定したトーンマップで表示します。画面サイズが小さい場合に適しています。

画質モード「HDR10+」で HDR10+コンテンツを視聴する際は、以下の設置条件を推奨します。

	HDR Level:高		HDR Level:中		HDR Level:低	
	画面サイズ 対角(型)	投写距離 (m)	画面サイズ 対角(型)	投写距離 (m)	画面サイズ 対角(型)	投写距離 (m)
Z7	96	2.86	83	2.44	71	2.09
Z5	88	2.69	77	2.28	66	1.93

Deep Black

暗部の階調を精密に制御し、全体的な画像のコントラスト感を向上させます。

※「画質モード」が「HDR10+」のときは、使用できません。

設定	内容
オン	Deep Black 機能をオンにして、よりリアリティのある暗闇を表現します。
オフ	Deep Black 機能をオフにします。

MPC

表示画像の鮮鋭感を調整する機能です。独自のアルゴリズムにより、フォーカスの合っている場所はよりシャープに、フォーカスの合っていない場所はより滑らかに自然な印象で、より奥行き感のある表現豊かな映像を楽しめます。

※1 「画質モード」が「FILMMAKER MODE」のときは、使用できません。

※2 「画質モード」が「HDR10+」のときは、「エンハンス」「スムージング」は使用できません。

※3 「グラフィックモード」が「オフ」のときは、「エンハンス」「スムージング」は使用できません。

グラフィックモード

MPC 処理の設定を切り替えます。

DVD、ブルーレイなどのコンテンツを視聴するときには「強」を、UHD などの 4K コンテンツには「弱」に設定することをおすすめします。

「強」および「弱」で表示画像の鮮鋭感強調効果が強いと感じる場合は、「オフ」に設定することをおすすめします。

設定	内容
オフ	エンハンス処理を行わない映像になります。
弱	4K 解像度のコンテンツ(UHD)に適したエンハンス処理を行います。
強	2K 以下の解像度のコンテンツ(DVD、ブルーレイ)に適したエンハンス処理を行います。

エンハンス

高域部の調整をします。設定値を大きくすると精細感が増し、シャープな画質になります。

- 設定値: 0~10

スムージング

低域部の調整をします。設定値を大きくすると、より滑らかな映像になります。

- 設定値: 0(弱い)~10(強い)

※ 「エンハンス」の設定値が小さい場合、効果が弱くなることがあります。

リセット

MPC の設定値をリセットします。

調整前と調整中の状態の切り換えについて

リモコンの[HIDE]ボタンを押すと、調整前と調整中の状態を切り換えることができます。

Clear Motion Drive

動きの速いシーンで発生する残像感を低減させます。

- ➔ 「動きの早い映像の残像を低減する(C.M.D.)」(P. 31)

画質調整

「画質モード」について、さらに詳細な設定を行います。

画質モード

視聴する映像の種類に合わせて画質を調整します。

- ▶ 「画質モードを設定する」(P. 26)

LD パワー

LD 電流を制御することによって、光源の明るさを制御します。

- 設定値: 0 ~ 100

ダイナミックコントロール

画像解析にもとづいて光源の明るさを制御することによって、映像表現上のダイナミックレンジを拡大します。

設定	内容
オフ	制御しません。
弱	ピーク輝度を維持しつつ、レーザー光源制御と映像信号の自動最適化を行います。「強」より弱めの制御です。
強	ピーク輝度を維持しつつ、レーザー光源制御と映像信号の自動最適化により、全体的に黒が締まるような映像になります。
バランス	ピーク輝度を抑えつつ、暗い部分と明るい部分の両方を適度に調整します。シーンの深みとリアリティが増します。

アパーチャー

アパーチャーを制御して、明るさを切り替えます。

- 設定値: -15(絞る) ~ 0(開く)

コントラスト

明暗の差を調整し、メリハリのある映像になります。

- 設定値: -50(明暗差が小さい) ~ +50(明暗差が大きい)

明るさ

映像の明るさを調整します。

- 設定値: -50(暗く) ~ +50(明るく)

色のこさ

映像の色の濃淡を調整します。

- 設定値: -50(薄く) ~ +50(濃く)

色あい

映像の色合いを調整します。

- 設定値: -50(赤っぽく) ~ +50(緑っぽく)

ユーザー名編集

画質モード「SDR 1」/「SDR 2」/「HDR 1」/「HDR 2」の名称を編集できます。

- 使用できる文字は、大文字・小文字のアルファベット、数字、記号、空白です。(最初の文字と最後の文字には空白は使用できません)
- 文字数は 10 字までです。





カラープロファイル

「カラープロファイル」について、さらに詳細な設定を行います。

カラープロファイル

設定した「画質調整」に対応した「カラープロファイル」を設定します。

- ▶ 「カラープロファイルを設定する」(P. 27)

カラーマネージメント

選択した「カラープロファイル」の設定値をベースに赤、マゼンタ、シアン、黄、緑、青の各色をそれぞれお好みの色に調整できます。

設定	内容
オン	詳細な調整を有効にします。
オフ	詳細な調整を無効にします。

色選択

調整する色(「赤」、「マゼンタ」、「シアン」、「黄」、「緑」、「青」)を選択します。

色相

色相(色合い)を調整します。

- 設定値: -30 ~ +30

彩度

彩度(あざやかさ)を調整します。

- 設定値: -30(くすんだ色) ~ +30(あざやか色)

明るさ

明るさを調整します。

- 設定値: -30(暗い) ~ +30(明るい)

調整前と調整中の状態の切り換えについて

リモコンの[HIDE]ボタンを押すと、調整前と調整中の状態を切り換えることができます。

K 色温度

「色温度」について、さらに詳細な設定を行います。

色温度

設定した「画質調整」に対応した「色温度」を設定します。

→ 「色温度」(P. 36)

補正值

「色温度」が「HDR10」「HLG」「Custom 1」「Custom 2」のときに「ゲイン赤」/「ゲイン緑」/「ゲイン青」/「オフセット赤」/「オフセット緑」/「オフセット青」の調整の元になる色温度を設定します。

• 「画質モード」によって、設定可能な「補正值」は異なります。

ゲイン赤 / ゲイン緑 / ゲイン青

映像の明るい部分を色ごとに調整します。

• 設定値: -255(赤/緑/青を弱く) ~ 0(調整なし)

オフセット赤 / オフセット緑 / オフセット青

映像の暗い部分を色ごとに調整します。

• 設定値: -50(赤/緑/青を弱く) ~ 0(調整なし) ~ +50(赤/緑/青を強く)

「画質モード」によって選択可能な「補正值」一覧

画質モード	補正值
ナチュラル ビビッド Frame Adapt HDR 1、Frame Adapt HDR 2 SDR 1、SDR 2 HDR 1、HDR 2 HLG	5500K
	6500K
	7500K
	9300K
	明るさ優先
シネマ	5500K
	6500K
	7500K
	9300K
	Xenon1 Z7
	Xenon2 Z7
	明るさ優先

ガンマトーンマップ

「ガンマトーンマップ」について、さらに詳細な設定を行います。

※ HDR 信号入力時で「画質モード」が「Frame Adapt HDR 1」/「Frame Adapt HDR 2」/「FILMMAKER MODE」のときは、使用できません。

※ 「画質モード」が「HDR10+」のときは、使用できません。

ガンマトーンマップ

設定した「画質モード」に対応した「ガンマトーンマップ」(入力した映像信号に対し、投写される映像の出力値)を調整します。

▶ 「投写される映像の出力値を調整する(ガンマトーンマップ)」(P. 30)

補正值

ガンマトーンマップが「Custom 1」～「Custom 3」の場合に「ピクチャートーン」、「暗部補正」、「明部補正」の調整の元になるガンマを設定します。

色選択

「ピクチャートーン」、「暗部補正」、「明部補正」を調整する色(「白」、「赤」、「緑」、「青」)を選びます。

ピクチャートーン

画質の階調を損なわずに自動でバランスを取りながら全体的な明るさを調整します。

- 設定値: -16(露光アンダーで暗くする)～+16(露光オーバーで明るくする)

暗部補正

明暗のはっきりとした画質に調整できます。

- 設定値: -7(暗い部分の輝度を落とす)～+7(暗い部分をより明るく)

明部補正

明暗のはっきりとした画質に調整できます。

- 設定値: -7(明るい部分の輝度を落とす)～+7(明るい部分をより明るく)

「画質モード」によって選択可能な「補正值」一覧

画質モード	補正值
ビビッド	ビビッド、インポート
シネマ ナチュラル SDR 1、SDR 2	1.8
	1.9
	2.0
	2.1
	2.2
	2.3
	2.4
	2.5
2.6	

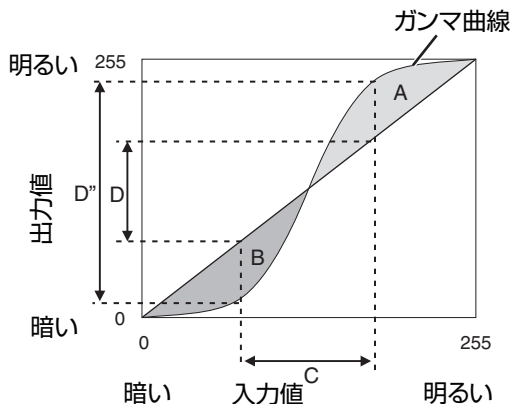
画質モード	補正值
シネマ ナチュラル SDR 1、SDR 2	シネマ 1
	シネマ 2
	インポート
HLG	HDR(HLG)
	インポート
HDR 1、HDR 2	HDR(PQ)
	インポート

「補正值」が「インポート」のとき

- 「補正值」で「インポート」を選ぶと、調整の元にする設定値として外部で作成したガンマデータを選択できます。
- 「インポート」の工場出荷値は、「2.2」です。
- キャリブレーションソフトを用いると、ガンマデータのカスタム調整および、作成したガンマデータをインポートすることができます。

詳しくはお買い上げの販売店またはカスタマーサポートセンターまでお問合せください。

✎ ガンマ調整について



- ガンマ曲線が直線の場合：入力映像と出力映像の明るさ、コントラストが同じになります。
- ガンマ曲線が直線より上に出ている部分(A)：入力に比べて、出力映像が明るくなります。
- ガンマ曲線が直線より下に出ている部分(B)：入力に比べて、出力映像が暗くなります。
- ガンマ曲線の傾きが急な部分(中間階調)(C)：出力映像の濃淡の範囲が広くなり、コントラストが高くなります(D→D')。

✎ HDR 信号入力時にトーンマップをマニュアルでご使用の場合

「HDR(PQ)」ガンマは、HDR10 に採用された PQ カーブであり、プロジェクターで視聴するため初期設定で最適にご視聴頂けるよう調整されていますが、スクリーンサイズや環境に合わせたきめ細かな調整が可能です。

※ 「画質モード」を「HDR 1」または「HDR 2」に設定してください。

ピクチャトーンの調整方法

ピクチャトーン

0



ピクチャトーンを-にする場合
(画面全体が暗くなります)
視聴していて明るく感じる



ピクチャトーンを+にする場合
(画面全体が明るくなります)
視聴していて暗く感じる

明部・暗部の調整方法

暗部補正

0



(-) コントラスト感を強調したい



(+) 暗部の情報を見やすくしたい

明部補正

0



(-) ハイライトの階調を出したい



(+) コントラスト感を強調したい

よりオリジナルの PQ カーブに忠実なガンマカーブを求められるお客様へ

本機の初期設定は、オリジナルの PQ カーブからスクリーン上でのプロジェクター画質を最適に表示するための調整がされています。より忠実な PQ カーブを求められるお客様は、下記の値を参考にマニュアルで調整ください。

※「画質モード」を「HDR 1」または「HDR 2」に設定してください。

クリップポイント 400 nits の場合

ピクチャートーン	+5
暗部補正	0
明部補正	+7

クリップポイント 1000 nits の場合

ピクチャートーン	-7
暗部補正	0
明部補正	+7

クリップポイント 2000 nits の場合

ピクチャートーン	-9
暗部補正	0
明部補正	+7

クリップポイント 4000 nits の場合

ピクチャートーン	-13
暗部補正	0
明部補正	+7

※ 本製品は、家庭用機器のため、マスタリング作業などの業務用途でのご使用は保証しません。

HDMI 設定

1 HDMI 1 設定 / 2 HDMI 2 設定

入力

入力映像のダイナミックレンジ(階調)を設定します。

「オート」を選択しても正しく表示されない場合は、適切な設定を選択してください。

- ダイナミックレンジが合っていないと、明るい部分が明るすぎて白飛びしたり、暗い部分が暗すぎて黒つぶれしたりします。

設定	内容
オート	入力信号レベルを自動で設定します。
16-235(Video)	ビデオ信号(ダイナミックレンジ:16 - 235)を入力する場合に設定します。
0-255(PC)	PC 信号(ダイナミックレンジ:0 - 255)を入力する場合に設定します。
16-255(S.White)	Super White 対応機器信号(ダイナミックレンジ:16 - 255)を入力する場合に設定します。

カラースペース

入力信号の色空間を設定します。

「オート」を選択しても正しく表示されない場合は、適切な設定を選択してください。

設定	内容
オート	「YCbCr444」、「YCbCr422」、「RGB」を自動で判別します。
YCbCr444	YCbCr (4:4:4) 映像信号を入力するときに設定します。
YCbCr422	YCbCr (4:2:2) 映像信号を入力するときに設定します。
RGB	RGB 映像信号を入力するときに設定します。

自動画質モード設定

SDR

SDR 信号入力時の「画質モード」の自動切り替え先を設定します。

設定	内容
ラストメモリー	SDR コンテンツ視聴時に最後に設定した「画質モード」にします。
ナチュラル	「画質モード」の自動切り替え先を「ナチュラル」にします。
シネマ	「画質モード」の自動切り替え先を「シネマ」にします。
ビビッド	「画質モード」の自動切り替え先を「ビビッド」にします。
SDR 1、SDR 2	「画質モード」の自動切り替え先を「SDR 1」、「SDR 2」にします。

HDR10

HDR10 信号入力時の「画質モード」の自動切り替え先を設定します。

設定	内容
ラストメモリー	HDR10 コンテンツ視聴時に最後に設定した「画質モード」にします。
Frame Adapt HDR 1	「画質モード」の自動切り替え先を「Frame Adapt HDR 1」にします。
Frame Adapt HDR 2	「画質モード」の自動切り替え先を「Frame Adapt HDR 2」にします。
HDR 1、HDR 2	「画質モード」の自動切り替え先を「HDR 1」、「HDR 2」にします。

HDR10+

HDR10+の伝送を許可するかどうかを設定します。HDR10+コンテンツを楽しみたい場合は「オン」を設定してください。

設定	内容
オン	HDR10+の伝送を許可します
オフ	HDR10+の伝送を禁止します

FILMMAKER MODE

FILMMAKER MODE を検出したときに、「画質モード」を自動的に「FILMMAKER MODE」に切り替えるかどうかを設定します。

設定	内容
オート	FILMMAKER MODE を検出したときに、「画質モード」を自動的に「FILMMAKER MODE」に切り替えます。
手動	FILMMAKER MODE を検出したときに、「画質モード」を自動的に「FILMMAKER MODE」に切り替えません。

MEMO

- 初めて FILMMAKER MODE を検出したときに、「画質モード」を自動的に切り替えるかどうかの確認メッセージを表示します。このとき「いいえ」を選択すると、「FILMMAKER MODE」は「手動」に設定されます。自動切り替えを行いたい場合には、「FILMMAKER MODE」を「オート」に設定してください。

映像タイプ

画質モードを選択するための映像コンテンツの種類を設定します。

「オート」を選択しても正しく表示されない場合は、適切な設定を選択してください。

項目	内容
オート	入力された映像方式に応じて、映像タイプを自動的に切り替えます。 自動切り替え後は、画質モードが「自動画質モード設定」で設定した画質モードになります。(「自動画質モード設定」P. 48)
SDR	SDR コンテンツの視聴に適した画質モードにします。
HDR10+	HDR10+コンテンツの視聴に適した画質モードにします。
HDR10	HDR10 コンテンツの視聴に適した画質モードにします。
HLG	HLG コンテンツの視聴に適した画質モードにします。

HDMI フォーマット設定

「HDMI 1/HDMI 2」端子の EDID モードを変更します。通常は「標準」に設定してください。

一部の古い機器でご使用の場合に映像が表示されない場合があります。その場合は、「オプション 1」、「オプション 2」をお試しください。

※ EDID (Extended Display Identification Data) とは、サポートしている解像度などを機器間でやり取りする情報の事です。

- ・ 設定値：標準、オプション 1、オプション 2

HDMI フォーマット設定と対応解像度

対応解像度	カラースペース	ビット数	HDMI フォーマット設定		
			標準	オプション 1	オプション 2
4K24p 4K30p 4K25p	RGB/YCbCr4:4:4	8bit	✓	✓	✓
		10、12bit	✓	✓	-
	YCbCr4:2:2	12bit	✓	✓	✓
4K60p 4K50p	YCbCr4:2:0	8bit	✓	✓	-
		10、12bit	✓	✓	-
	RGB/YCbCr4:4:4	8bit	✓	✓	-
		10、12bit	✓	-	-
YCbCr4:2:2	12bit	✓	✓	-	

設置設定

設置設定

設置設定モード

「レンズコントロール」、「画素調整」、「画面マスク」、「アナモフィック」、「スクリーン設定」、「設置スタイル」、「台形補正」、「アスペクト」の設定値をまとめて管理します。

※ レンズ位置は保存した状態に対して、若干のズレが生じることがあります。

ロード

保存した設定値を現在の設定に反映します。

- 設定値：Mode 1～Mode 5

※ 設定値は「モード名編集」から変更することができます。

セーブ

現在の設定を保存します。

- 設定値：Mode 1～Mode 5

※ 設定値は「モード名編集」から変更することができます。

モード名編集

設置設定モードの名前を編集します。

- 使用できる文字は、大文字・小文字のアルファベット、数字、記号、空白です。(最初の文字と最後の文字には空白は使用できません)
- 文字数は 10 字までです。



レンズコントロール

フォーカス/ズーム/シフト

投写箇所に合わせて、レンズを調整します。

→「投写箇所に合わせてレンズを調整する」(P. 24)

イメージパターン

レンズ調整用パターンの表示/非表示を設定します。

設定	内容
オフ	レンズ調整用パターンを表示せず、外部信号を表示します。
オン	レンズ調整用パターンを表示します。

ロック

レンズのロック/アンロックを設定します。

「オン」に設定してレンズをロックすることにより、レンズの調整状態を保護することができます。

設定	内容
オフ	レンズをロックしません。
オン	レンズをロックして、設定した調整状態から誤操作を防ぎます。 <ul style="list-style-type: none">「オン」時でも、「設置設定モード」により選択されたモードのレンズ状態になります。

レンズセンター

レンズの位置をセンター(中心位置)に戻します。

画素調整

表示画素を調整して RGB 各色の間の位相のずれを補正します。

調整

調整機能のオン・オフを設定します。

調整エリア

設定	内容
全エリア	画面全体を調整します。
ゾーン	画面の縦と横を 10 等分した位置ごとに詳細な調整ができます。

調整色

調整を行う色(「赤」または「青」)を選びます。

調整パターン

設定	内容
オフ	調整用テストパターンを表示せず、外部信号を表示します。
オン	調整用テストパターンを表示します。

調整パターン色

調整を行うときに表示される調整パターンの色を「白」または「黄 / シアン」に設定します。

調整(画素)

「調整エリア」が「全エリア」に設定されているとき、「調整色」で選んだ色の画面全体の画素を 1 画素ごとに移動して調整します。

➔ 「全面調整(画素)の操作方法」(P. 54)

- 「調整エリア」が「ゾーン」に設定されている場合は、調整できません。

設定	内容
H(水平)	設定値: -2(赤/青を左に移動) ~ +2(赤/青を右に移動)
V(垂直)	設定値: -2(赤/青を下に移動) ~ +2(赤/青を上移動)

ファイン

「調整エリア」が「全エリア」に設定されているとき、「調整色」で選んだ色の画面全体の画素を 1/8 画素ごとに移動して微調整します。

➔ 「全面調整(ファイン)の操作方法」(P. 55)

「調整エリア」が「ゾーン」に設定されているときは、画面を縦と横を 10 等分した位置ごとに詳細な調整ができます。

➔ 「部分調整(ゾーン調整)の操作方法」(P. 56)

設定	内容
H(水平)	設定値: -31(赤/青を左に移動) ~ +31(赤/青を右に移動)
V(垂直)	設定値: -31(赤/青を下に移動) ~ +31(赤/青を上移動)

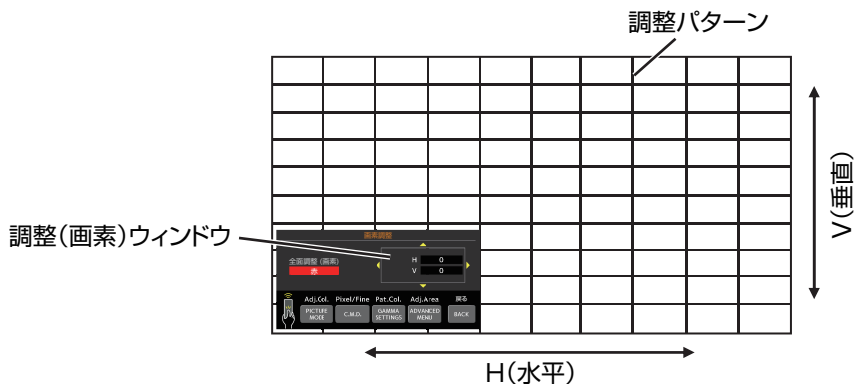
リセット

すべての画素調整データを工場出荷状態に戻します。

✎ 全面調整(画素)の操作方法

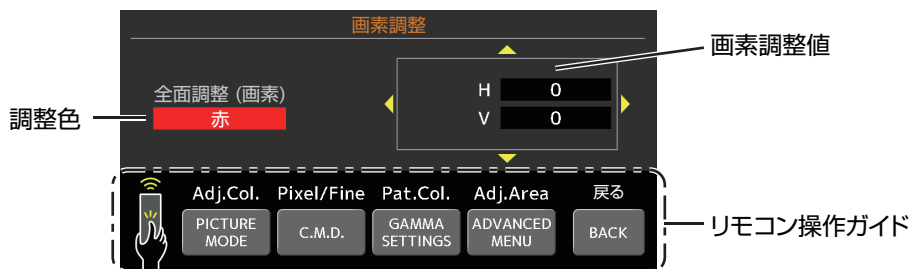
映像の水平方向・垂直方向のわずかな色ずれの大枠を調整します。

- ① 「調整エリア」を「全エリア」に設定する
- ② 「調整色」と「調整パターン色」を選ぶ
- ③ 「調整(画素)」を選び、[OK]ボタンを押す
 - 調整モードになり、選んだ調整パターンと調整(画素)ウィンドウが表示されます。



- ④ [▲▼◀▶]キーでゾーン全体の水平・垂直の画素を動かして調整する

- 調整値が調整(画素)ウィンドウの中央に表示されます。



- ⑤ 調整が終わったら、[BACK]ボタンを2回押して調整モードを解除する

リモコン操作ガイド

ボタン名	機能	操作内容
[PICTURE MODE]	Adj.Col.	「調整色」を変更します。
[C.M.D.]	Pixel/Fine	「調整(画素)」と「ファイン」を切り換えます。 • 「調整エリア」が「ゾーン」の場合は、「調整(画素)」に切り換えます。
[GAMMA SETTINGS]	Pat.Col.	「調整パターン色」を変更します。
[ADVANCED MENU]	Adj.Area	「調整エリア」を切り換えます。 • 「ゾーン」に変更した場合は、調整パターン上にゾーンカーソルが表示されます。

✎ 全面調整(ファイン)の操作方法

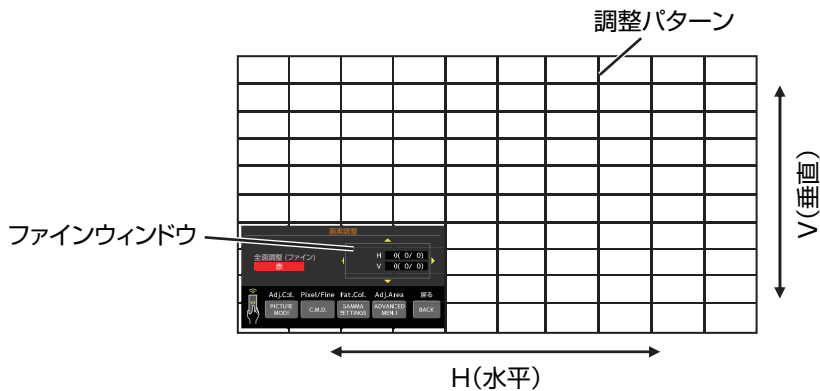
「調整(画素)」で画面全体のずれの大枠を調整した後に、微調整します。

① 「調整エリア」を「全エリア」に設定する

② 「調整色」と「調整パターン色」を選ぶ

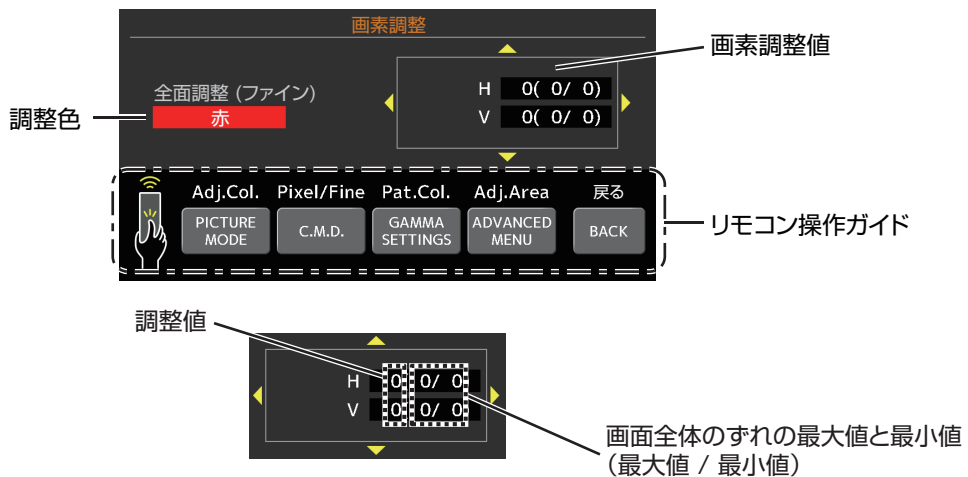
③ ファインを選び、[OK]ボタンを押す

- 調整モードになり、選んだ調整パターンとファインウィンドウが表示されます。
- 全面調整(画素)で調整した画素の量によっては、調整の範囲が狭くなる場合があります。



④ [▲▼◀▶]キーでゾーン全体の水平・垂直の画素を動かして調整する

- 調整値がファインウィンドウの中央に表示されます。



⑤ 調整が終わったら、[BACK]ボタンを2回押して調整モードを解除する

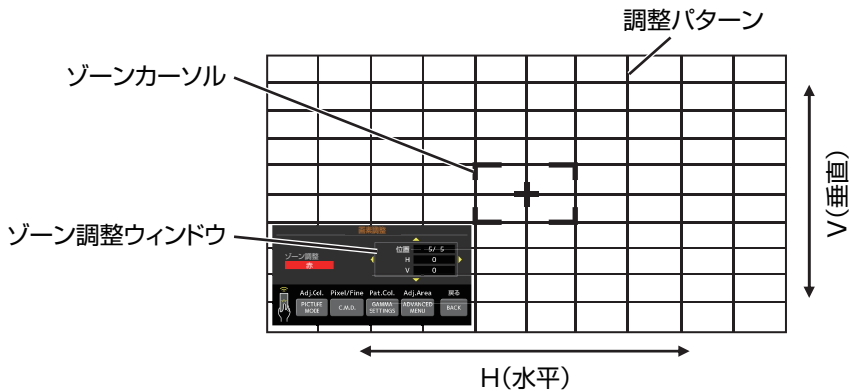
✎ MEMO

- H(水平方向)もV(垂直方向)も、それぞれの画面全体のずれの最大値が「31」の場合は、調整値がそれ以下であっても、表示されている調整値以上には調整できません。
- 画面全体のずれの最小値が「-31」の場合は、調整値がそれ以上であっても、表示されている調整値以下には調整できません。

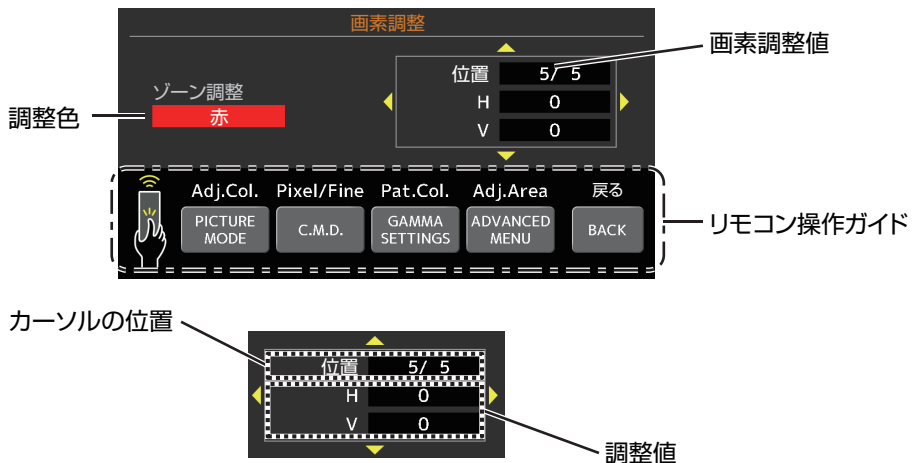
✎ 部分調整(ゾーン調整)の操作方法

「調整(画素)」と「ファイン」で画面全体のずれを調整した後に、画面のずれている部分を微調整します。

- 部分調整は、縦と横を 10 等分した位置で調整できます。
- ① 「調整エリア」を「ゾーン」に設定する
 - ② 「調整色」と「調整パターン色」を選ぶ
 - ③ ファインを選び、[OK]ボタンを押す
 - 調整モードになり、選んだ調整パターンとゾーン調整ウィンドウが表示されます。
 - 全面調整(画素)で調整した画素の量によっては、調整の範囲が狭くなる場合があります。



- ④ [▲▼◀▶]キーを押して、調整する場所にゾーンカーソルを移動する
- ⑤ [OK]ボタンを押して、調整モードにする
- ⑥ [▲▼◀▶]キーでゾーン全体の水平・垂直の画素を動かして調整する
 - 調整値がゾーン調整ウィンドウの中央に表示されます。



- ⑦ 調整が終わったら、[BACK]ボタンを 2 回押して調整モードを解除する

画面マスク

画面外周部をマスク(黒帯)で隠すことができます。

設定	内容
オフ	マスク(黒帯)しません。
オン	「上」、「下」、「左」、「右」で設定した範囲をマスク(黒帯)で隠します。

■ オフ



■ オン



マスク:外周黒帯

「上」/「下」/「左」/「右」

マスク(黒帯)で隠す範囲を設定します。

- 設定値:0 ~ 220

アナモフィック

アナモフィックレンズを使用するときに設定します。

設定	説明
オフ	2.35:1 の映像をそのまま投写します。
A	2.35:1 の映像を縦方向のみ引き伸ばして 3840 画素の横幅で投写します。
B	16:9 の映像を横方向のみ圧縮して投写します。
C	Panamorph 社製 DCR レンズ専用モードです。 2.35:1 の映像の縦方向を引き伸ばし、横方向は 4096 画素のパネルの最大幅まで拡大し投写します。
D	Panamorph 社製 DCR レンズ専用モードです。 16:9 の映像を横方向のみ圧縮して投写します。

スクリーン設定

スクリーン補正

使用するスクリーンの特性に合わせて色温度を補正します。

最適な補正モードを設定すると、自然で色彩のバランスのとれた映像に補正されます。

- ・「カラープロファイル」が「オフ(ワイド)」「オフ(ノーマル)」のときは、使用できません。

設定	内容
オフ	補正を行いません
オン	「スクリーン No.」で設定したスクリーンの特性に合わせて色温度を補正します。

スクリーン No.

使用するスクリーンに対応した補正モードを設定します。

- ・「スクリーン補正」が「オフ」のときは、設定できません。
- ・スクリーンと補正モードの対応表は、当社ホームページをご確認ください。

<https://www.victor.jp/projector/screen/>

MEMO

- ・オプションの光学センサーと専用プロジェクターキャリブレーションソフトウェアを使用することで、より細かい調整ができます。
専用プロジェクターキャリブレーションソフトウェアは、当社ホームページをご確認ください。

<https://www.victor.jp/projector/support/>

スクリーンアスペクト

視聴するスクリーンのアスペクトを設定します。

設置スタイル

プロジェクターの設置状態に合わせて、「フロント」、「天吊り(フ)」、「リア」、「天吊り(リ)」に設定します。

- ・「フロント」または「天吊り(フ)」は、スクリーンに対して正面から投写するときに設定します。
- ・「リア」または「天吊り(リ)」は、スクリーンに対して裏側から投写するときに設定します。

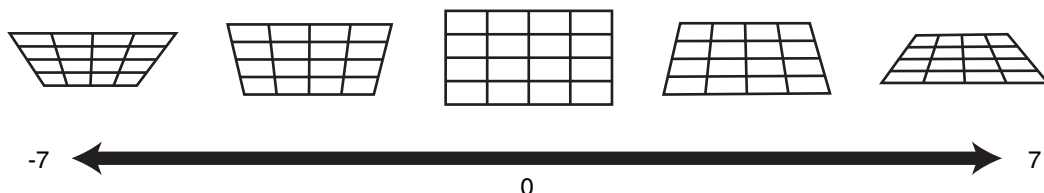
台形補正

スクリーンに対して、斜めに設置した場合に生じる台形歪みを補正します。(垂直方向のみ)

- ・垂直方向の設定範囲：-7 ~ 7

※ 設定値を大きくした場合、アスペクトが少し変化します。

※ 歪みを補正すると、映像のサイズが小さくなります。



アスペクト

入力されたオリジナルの画面サイズ(アスペクト)に対して、投写する映像の画面サイズを最適に設定できます。

➔ 「画面サイズ(アスペクト)を調整する」(P. 25)

ネットワーク設定

パソコンやスマートフォンなどから外部制御する場合に設定します。

設定		内容
DHCP クライアント	オン	接続するネットワーク内の DHCP サーバーより、IP アドレスなどを自動で取得します。
	オフ	ネットワーク設定を手動で行います。
IP アドレス		IP アドレスを設定します。
サブネット マスク		サブネットマスクを設定します。
デフォルト ゲートウェイ		デフォルトゲートウェイを設定します。
MAC アドレス		本機の MAC アドレスを表示します。
セット		ネットワークの設定内容を反映します。
Control4 SDDP		Control4 SDDP による本機の検出を有効にしたいときは、「オン」に設定します。Control4 社のコントローラーや Control4 SDDP で制御する環境に接続していないときは、「オフ」に設定してください。

ネットワーク用語説明

- DHCP** : Dynamic Host Configuration Protocol の略称で、ネットワークに接続する機器に自動で IP アドレスを割り当てるプロトコルです。
- IP アドレス** : ネットワークに接続された機器を識別するための数字です。
- サブネット マスク** : IP アドレスから分割したネットワークアドレスに使用するビット数を定義する数字です。
- デフォルト ゲートウェイ** : サブネットマスクによって分割したネットワークを越えて通信するためのサーバーです。
- MAC アドレス** : Media Access Control アドレスの略称で、ネットワークアダプターごと固有の番号です。すべてのネットワークアダプターに 1 つずつ割り当てられています。

表示設定

バックカラー

信号入力がないときに表示する背景色を「青」または「黒」に設定します。

メニュー位置

メニューの表示位置を設定します。

入力情報

入力情報の表示の「オン」、「オフ」を設定します。

設定	内容
オフ	表示しません。
オン	入力を切り換えたとき、入力端子名を 5 秒間表示します。

ロゴ

起動時のロゴの表示の「オン」、「オフ」を設定します。

設定	内容
オフ	表示しません。
オン	起動時に「D-ILA」ロゴを 5 秒間表示します。

言語

表示言語を「English」、「Deutsch」、「Español」、「Italiano」、「Français」、「Português」、「Nederlands」、「Polski」、「Norsk」、「繁體中文」、または「日本語」に設定します。



ECO 設定

オフタイマー

無操作時に、自動的に電源が切れる時間を設定します。

- 設定値:「オフ」、「1 時間」、「2 時間」、「3 時間」、「4 時間」

※ オフタイマー作動後も設定は維持されます。

ECO Mode

設定	内容
オン	待機(スタンバイ)時の消費電力を抑える「ECO Mode」にします。 <ul style="list-style-type: none"> • 待機時は、LAN 通信が使用できません。 • 投写中、無信号かつ無操作の状態が 15 分続くと、自動的に電源をオフにし、待機状態になります。
オフ	待機時に LAN 通信により制御する場合や、Control4 を使用する場合に設定します。

※ 「ECO Mode」が「オン」で待機状態になった場合、本体インジケータはすべて消灯し、「STANDBY/ON」インジケータも点灯しません。この状態から電源を入れるときは、本体の[STANDBY/ON]ボタンを使用するか、リモコンのいずれかのボタンを 1 度押して待機状態を解除してからリモコンの[ON]ボタンを押してください。

ハイドモード

[HIDE]ボタンを押して映像を一時的に消しているときに、LD ブロックの出力電流を抑えて消費電力を削減します。

設定	内容
オフ	[HIDE]ボタンを押して映像を一時的に非表示にしても、LD ブロックへの電源供給は抑えません。
オン	[HIDE]ボタンを押して映像を一時的に非表示にすると、LD ブロックへの電源供給も抑えます。

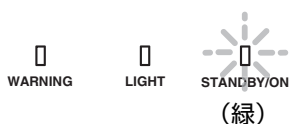
システム設定

リモコンコード

リモコンのコードを変更します。

設定	内容
A	リモコンコードを「A」に設定します。
B	リモコンコードを「B」に設定します。

- 本体の設定に合わせて、リモコンの設定も必要です。
リモコン側は、[BACK]ボタンを押しながら[MENU]ボタンを3秒以上押すことでコードが切り換わります。
 - リモコンのバックライトが3回点滅: リモコンコードを「A」に変更
 - リモコンのバックライトが2回点滅: リモコンコードを「B」に変更
- 本体の設定とリモコンの設定が異なる場合、リモコンコードを受信すると「STANDBY/ON」インジケータが緑色に点滅します。



高地モード

高地モードの「オン」、「オフ」を設定します。

気圧の低い場所(海拔 900 m 以上)で使用するときには、「オン」に設定します。

設定バックアップ

USB メモリーを使用して、プロジェクターの設定をエクスポート/インポートします。

- 現在のレンズコントロール情報(フォーカス、ズーム、シフト)はエクスポート/インポートされません。

注意

USB メモリーは以下のものをご使用ください。

- 1GB 以上、FAT32 フォーマット
- 他のフォルダーやファイルがないようにしてください。
- 実行中は、本体の電源を切ったり USB メモリーを抜いたりしないでください。プロジェクターの故障の原因となります。
- ファイル名は変更しないでください。

設定エクスポート

プロジェクターの設定を USB メモリーに書き出します。


- ※ USB メモリーに十分な空き領域がない場合、エクスポートされないことがあります。
- ※ エクスポート時に作成されるファイルには、作成日時などの情報は反映されません。

注意

- 同一の USB メモリーに複数の設定はエクスポートできません。すでに USB メモリー内にデータがある場合は、上書きされます。

設定インポート

プロジェクターの設定を USB メモリーから読み出し、プロジェクターに反映します。

- ※ 設定のインポートが完了すると、プロジェクターの電源が切れ、LED インジケーターがすべて消灯します。再び電源を入れる場合には、本体の  ボタンを使用するか、リモコンのいずれかのボタンを一度押してスタンバイ状態にしてから、リモコンの **[ON]** ボタンを押してください。

注意

設定をインポートすると、現在の設定は上書きされます。

オールリセット

本機の設定を工場出荷状態に戻します。ただし、つぎの設定はリセットされません。

- 「ガンマ」→「補正值」→「インポート」に保存したガンマデータ
- 「カラープロファイル」→「Custom1～Custom4」に保存したカラープロファイルデータ

ソフトウェアアップデート

ソフトウェアアップデートを行うときに使用します。

ソフトウェアの最新情報については <https://www.victor.jp/projector/support/> を参照してください。

情報

情報

設定	内容
入力	映像入力端子を表示します。
ソース (ビデオ信号入力時のみ表示)	入力ソースを表示します。
解像度 (PC 信号入力時のみ表示)	解像度を表示します。
水平周波数	水平周波数を表示します。
垂直周波数	垂直周波数を表示します。
カラースペース	入力信号の色空間と色のビット深度を表示します。 <ul style="list-style-type: none">• ビット深度は、「YCbCr422」を入力したときは表示されません。• ビット深度は、ソース機器からビット深度の情報があつたときに表示されます。
Colorimetry	入力信号の Colorimetry を表示します。
HDR	HDR パケットを受信した場合に、EOTF 情報を表示します。HDR10+パケットを受信した場合には「HDR10+」と表示します。 FILMMAKER MODE パケットを受信した場合に「FILMMAKER MODE」と表示します。
Max CLL/FALL/DML	HDR 再生時にコンテンツのマスタリング情報を表示します。 Max CLL: コンテンツの明るさの最大値 Max FALL: フレーム毎の明るさの平均の最大値 Max DML: コンテンツ制作におけるマスターモニターの明るさ <ul style="list-style-type: none">• プレイヤーやコンテンツによっては、表示されない場合があります。
ソフト Ver.	ファームウェアのバージョンを表示します。
光源点灯時間	レーザー光源の使用時間を表示します。

キャビネット、リモコンのお手入れ

- 柔らかい布で軽くふき取ってください。
- 汚れがひどいときは、水でぬらした布を良く絞ってふき取り、乾いた布で乾拭きしてください。
- キャビネットが変質したり、塗料がはげたりすることがありますので、次のことに注意してください。
 - シンナーやベンジンで拭かない
 - ゴムやビニール製品などを長時間接触させたままにしない
 - 殺虫剤など揮発性のものをかけない

故障かな？と思ったら

修理を依頼される前に、次の点を確認してください。

こんなときは故障ではありません。

下記のような場合でも、画面に異常がなければ心配ありません。

- 本体の上面や前面の一部が熱くなっている場合
- 本体から「ミシッ」という音がする場合
- 本体の内部から動作音が聞こえる場合
- 画面によっては色にじみが出る場合

本機はデジタル機器のため、静電気やノイズなどにより正常に動作しなくなる場合があります。そのようなときには、次の操作を行なってください。

- ① スタンバイ状態のときに電源プラグを1度抜いてから、再び差し込む
- ② 本体の **ON/OFF** ボタンを押して電源を入れ直す

「高地モード」が「オン」のときは、ファンが高速で回るため、通常より音が大きくなります。

電源が入らない

確認	対処	参照ページ
電源コードがはずれていませんか？	電源コード(プラグ)をしっかりと差し込んでください。	P. 21
クールダウンモードではありませんか？	クールダウンモードが終了してから、もう一度電源を入れてください。	P. 23
「ECO Mode」ではありませんか？	本体の ON/OFF ボタンを押すか、リモコンのいずれかのボタンを1度押して、「STANDBY/ON」インジケータが赤色に点灯してから ON ボタンを押してください。	P. 61

電源が切れてしまう

確認	対処	参照ページ
「ECO Mode」を設定していませんか？	「ECO Mode」を「オフ」にしてください。	P. 61
「オフタイマー」を設定していませんか？	「オフタイマー」を「オフ」にしてください。	P. 61
吸気口や排気口をふさいでいませんか？	正しい間隔を空けて、設置してください。	P. 10、11、16

映像が出ない

確認	対処	参照ページ
正しい外部入力を選んでいますか？	正しい外部入力端子を選んでください。	P. 22
AV 機器や PC などの電源は入っていますか？	AV 機器や PC などの電源を入れて、再生してください。	P. 19
AV 機器や PC などを正しく接続していますか？	AV 機器や PC などを正しく接続してください。	P. 19
AV 機器や PC などから正しい信号が出ていますか？	AV 機器や PC などを正しく設定してください。	P. 19
HDMI 規格を取得したケーブルをお使いですか？	ウルトラハイスピード HDMI ケーブル(48Gbps 対応)をご使用ください。HDMI ケーブルには方向性があるものや、外部電源が必要なものがあります。ご使用のケーブルの仕様をご確認ください。	P. 19
AV アンプや分配器などの中間機器を使っていますか？	ソース機器と中間機器、プロジェクターの電源を入れる順番を変更してください。また、その際には各機器の電源を入れた後、信号出力が安定してから次の機器の電源を入れてください。中間機器が HDR10+非対応の場合、「自動画質モード設定」の HDR10+を「オフ」に設定してください。	P. 48
古いソース機器を使っていませんか？	ソース機器の解像度設定を変更して、ご確認ください。変更方法については、ソース機器の取扱説明書をご覧ください。また、「HDMI フォーマット設定」のモード設定「オプション 1」「オプション 2」をお試しください。	P. 50
2K (2048x1080) 24/25/30/60Hz の信号を入力していませんか？	2K (2048x1080) 24/25/30/50/60Hz の信号を入力する場合は、「HDMI フォーマット設定」を「オプション 1」に設定してください。	P. 50
一時的な接続不良が原因の場合があります。	プロジェクターおよび接続機器(プレイヤーや AV アンプ)の電源を入れ直してください(入 → 切 → 入)。	P. 19

映像がおかしい

色がおかしい

確認	対処	参照ページ
入力信号のカラースペースは正しいですか？	入力されている信号とプロジェクターの設定が違っていると色がおかしくなります。「HDMI 1 設定」/「HDMI 2 設定」の「カラースペース」を正しく設定してください。	P. 48
映像調整は正しいですか？	「色のこさ」や「色あい」を調節してください。画質モードを確認してください。	P. 41
AV 機器や PC などを正しく接続していますか？	AV 機器や PC などを正しく接続してください。	P. 19

※ 起動直後のみ映像に少し赤みがある場合がありますが、故障ではありません。

映像がぼやける

確認	対処	参照ページ
フォーカス(焦点)は合っていますか？	フォーカスを調整してください。	P. 24
距離が近すぎたり、遠すぎたりしませんか？	正しい距離に設置してください。	P. 78

映像がちらつく

確認	対処	参照ページ
「ダイナミックコントロール」を設定していませんか？	「ダイナミックコントロール」を「オフ」に設定してください。	P. 41
「C.M.D.」を設定していませんか？	「C.M.D.」を「オフ」に設定してください。	P. 31

映像のフォーマットが変化する

確認	対処	参照ページ
HDMI 規格を取得したケーブルをお使いですか？	ご使用するケーブルの品質によっては、接続機器から出力される信号が受信可能な映像フォーマットに変化する可能性があります。規格認証されたウルトラハイスピード HDMI ケーブル (48Gbps 対応) をご使用ください。	P. 19

映像が暗い

確認	対処	参照ページ
アパーチャーが閉じていませんか？	「アパーチャー」の設定値を大きくしてください。	P. 41
「LD パワー」の値が低く設定されていませんか？	「LD パワー」の値を大きくしてください。	P. 41
画質モードを確認してください。	画質モードを変更すると改善する場合があります。	P. 26
「ダイナミックコントロール」が「オフ」以外に設定されていませんか？	「ダイナミックコントロール」を「オフ」に設定してください。	P. 41

映像が横長(縦長)になる

確認	対処	参照ページ
「アナモフィック」が「オフ」以外に設定されていませんか？	「アナモフィック」を「オフ」に設定してください。	P. 57

画面に縞模様が見える

確認	対処	参照ページ
スクリーンの布地が均一で規則正しい布目ではありませんか？	布目と素子の間で干渉縞が発生することがあります。購入店に相談してください。	—

映像が欠ける

確認	対処	参照ページ
画面マスクを設定していませんか？	「画面マスク」を「オフ」にしてください。	P. 57
「アナモフィック」を「オフ」以外に設定していませんか？	「アナモフィック」を「オフ」にしてください。	P. 57
「アスペクト」を「ネイティブ」以外に設定していませんか？	「アスペクト」を「ネイティブ」に設定してください。	P. 25

リモコンが効かない

確認	対処	参照ページ
電池は正しく入っていますか？	電池の極性(⊕⊖)を正しく入れてください。	P. 13
電池が消耗していませんか？	新しい電池に交換してください。	P. 13
リモコンとリモコン受光部との間に遮へい物はありませんか？	遮へい物を取り除いてください。	P. 13
距離が離れすぎていませんか？	近づいて送信してください。	P. 13
リモコンコードは正しく設定されていますか？	プロジェクターとリモコンの設定を合わせてください。工場出荷時は両方とも「A」に設定されています。	P. 62

音が気になる

確認	対処	参照ページ
排気口がふさがっていませんか？ 暖房器具やエアコンが近くにありませんか？	設置状態を確認してください。 プロジェクターの周囲温度が高いとプロジェクター本体を保護する為にファン回転数が上昇し、騒音が大きくなります。	P. 16 P. 16
「LD パワー」の値が高く設定されていますか？	「LD パワー」の値が高く設定されるとファン回転数が上昇し、騒音が大きくなります。	P. 41

画面に小さい黒点や色のついた点が見える

D-ILA 素子は高精度技術で製造されていますが、0.01%以内で画素欠けや常時点灯する画素があります。故障ではありません。

設定がエクスポートされない

確認	対処	参照ページ
USB メモリーの空き容量は十分ですか？	USB メモリーは以下のものをご使用ください。 <ul style="list-style-type: none">• 1GB 以上、FAT32 フォーマット• 他のフォルダーやファイルがないようにしてください。	P. 62

こんな表示がされたら

メッセージ	内容	対処
無信号	<ul style="list-style-type: none">入力端子に何も接続されていない入力端子が接続されているが、信号がない	映像信号を入力してください。
Out of Range	本機で使用できない映像信号が入力されている	使用できる映像信号を入力してください。(P. 80)

保証とアフターサービス

保証書と補修性能部品について

保証書(別添付)

保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店名」などの記入をお確かめのうえ、販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

DLA-Z7 の保証期間は お買い上げの日から 3 年間です。
DLA-Z5 の保証期間は お買い上げの日から 1 年間です。

補修性能部品の最低保有期間

当社は、プロジェクターの補修性能部品を、製造打ち切り後、最低 8 年間は保有しています。
性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理を依頼されるときは

66～70 ページに従って調べていただき、なお異常のあるときは、電源を切り、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店にご連絡ください。

保証期間中は

修理の際は保証書をご提示ください。保証書の規定に従って販売店及び、当社のサービス会社が修理させていただきます。

保証期間が過ぎているときは

修理すれば使用できる場合には、ご希望により修理させていただきます。

修理料金のしくみ

修理料金は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。

技術料	故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機械設備費、一般管理費が含まれています。
部品代	修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材などを含む場合もあります。
出張料	製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

ご連絡していただきたい内容

品名	D-ILA プロジェクター
型名	DLA-Z7-B、DLA-Z5-B、DLA-Z5-W
ご住所・お名前	付近の目印なども
お買い上げ日	年 月 日
故障の状況	できるだけ具体的に
電話番号	() -

愛情点検

- 長年ご使用の本機の点検をぜひ！
熱、湿気、ホコリなどの影響や、使用の度合により部品が劣化し、故障したり、時には安全性を損なって事故につながることもあります。

このような症状はありませんか？

- 電源を入れても映像が出ない。
- 上下、または左右の映像が欠けて映る。
- 映像がとどき、消えることがある。
- 変なにおいがしたり、煙が出たりする。
- 電源を切っても、映像が消えない。



ご使用を中止してください

故障や事故防止のため、電源を切り、コンセントから電源プラグをはずし、必ず販売店に点検をご相談ください。

お客様の個人情報のお取り扱いについて

ご相談窓口におけるお客様の個人情報につきましては、株式会社 JVC ケンウッドおよび JVC ケンウッドグループ関係会社(以下、当社)にて、下記のとおり、お取り扱いいたします。

- お客様の個人情報は、お問い合わせへの対応、修理およびその確認連絡に利用させていただきます。
- お客様の個人情報は、適切に管理し、当社が必要と判断する期間、保管させていただきます。
- 次の場合を除き、お客様の同意なく個人情報を第三者に提供または開示することはありません。
 - ① 上記利用目的のために、協力会社に業務委託する場合。当該協力会社に対しては、適切な管理と利用目的外の使用をさせない措置をとります。
 - ② 法令に基づいて、司法、行政またはこれに類する機関から情報開示の要請を受けた場合。
- お客様の個人情報に関するお問い合わせは、ご相談いただきましたご相談窓口にご連絡ください。

外部制御

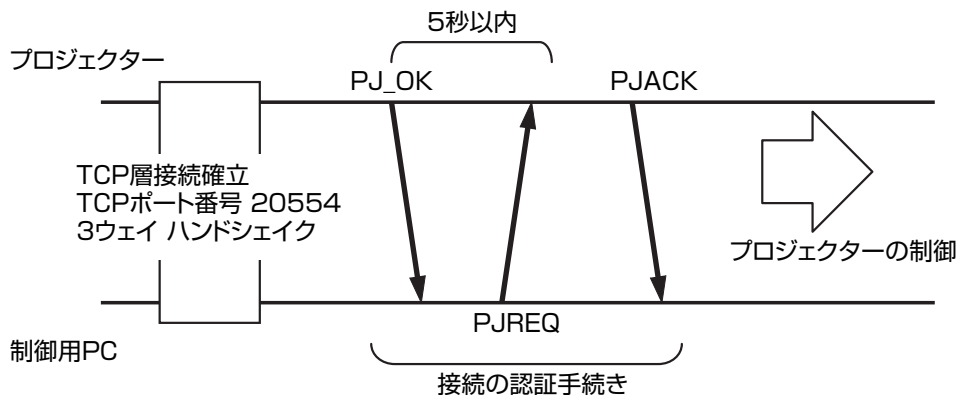
コンピューターネットワークを経由して、外部のパソコンと LAN ケーブルで接続し、制御コマンドを送ることで本機を制御することができます。

▶ 「 ネットワーク設定」(P. 59)

- システムの管理者に相談するか、専門書などを読んで、ご理解した上でご利用ください。

TCP/IP 接続

LAN で制御する前に、「3 ウェイ ハンドシェイク (3way handshake)」で TCP 層の接続を確立し、接続認証のためにプロジェクターからの「PJ_OK」の送信後 5 秒以内に「PJREQ」を送り、「PJACK」を受信する必要があります。5 秒以内に送信できなかつたり、「PJ_NG」、「PJNAK」を受信したりした場合は、プロジェクターの動作状況などを確認した上で再度、TCP 層接続の確立から実施してください。



コマンドフォーマット

本機とパソコン間のコマンドは、「ヘッダー」、「ユニット ID」、「コマンド」、「データ」、「終了」の 5 種類で構成されています。

- ヘッダー(1 バイト)・ユニット ID(2 バイト)・コマンド(2 バイト)・データ(n バイト)・終了(1 バイト)

ヘッダー

通信の開始を示すバイナリコードです。

バイナリコード	種別	説明
21	操作コマンド	PC → 本機
3F	参照コマンド	PC → 本機
40	応答コマンド	本機 → PC
06	ACK	本機 → PC(コマンドを正常に受け付けたときに、PC へ返す)

ユニット ID

本機を指定するコードです。バイナリコードは「8901」固定です。

コマンドとデータ

操作コマンドとデータ(バイナリコード)

コマンド	種類	データ説明
0000	接続確認	スタンバイ時に、本機と PC 間で通信ができるかを確認します。
5057	電源	スタンバイ時 31:電源をオンにします。 電源オン時 30:電源をオフにします。(スタンバイ状態)
4950	入力	電源オン時 36:HDMI 1 37:HDMI 2
5243	リモコン	付属のリモコンと同じコードを送ります。 • 「リモコンコード」P. 74

参照コマンドとデータ(バイナリコード)

コマンド	種類	データ説明
5057	電源	スタンバイまたは電源オン時 30:スタンバイ状態 31:電源オン状態 32:クールダウンモード中 34:本機の異常時
4950	入力	電源オン時 36:HDMI 1 37:HDMI 2

終了

通信の終了を示すコードです。バイナリコードは「0A」固定です。

リモコンコード

通信するときは、バイナリコードで送信します。

リモコンボタン名称	バイナリコード
STANDBY	37 33 30 36
ON	37 33 30 35
INPUT	37 33 30 38
SETTING MEMORY	37 33 44 34
LENS CONTROL	37 33 33 30
HIDE	37 33 31 44
INFO.	37 33 37 34
▲	37 33 30 31
▼	37 33 30 32
▶	37 33 33 34
◀	37 33 33 36

リモコンボタン名称	バイナリコード
OK	37 33 32 46
MENU	37 33 32 45
BACK	37 33 30 33
PICTURE MODE	37 33 46 34
COLOR PROFILE	37 33 38 38
GAMMA SETTINGS	37 33 46 35
C.M.D.	37 33 38 41
MPC	37 33 46 30
ADVANCED MENU	37 33 37 33

通信例

通信例を示します。

操作コマンド

種別	コマンド	説明
接続確認	PC → 本機:21 89 01 00 00 0A 本機 → PC:06 89 01 00 00 0A	接続を確認
電源(オン)	PC → 本機:21 89 01 50 57 31 0A 本機 → PC:06 89 01 50 57 0A	スタンバイ状態から電源をオンにしたとき
電源(オフ)	PC → 本機:21 89 01 50 57 30 0A 本機 → PC:06 89 01 50 57 0A	電源オン状態から電源をオフ(スタンバイ状態)にしたとき
リモコン(MENU)	PC → 本機:21 89 01 52 43 37 33 32 45 0A 本機 → PC:06 89 01 52 43 0A	リモコンの[MENU]ボタンを押したときと同じ動作をさせたとき

参照コマンド

種別	コマンド	説明
電源(オン)	PC → 本機:3F 89 01 50 57 0A 本機 → PC:06 89 01 50 57 0A 本機 → PC:40 89 01 50 57 31 0A	電源オン状態の情報を得たとき
入力(HDMI 1)	PC → 本機:3F 89 01 49 50 0A 本機 → PC:06 89 01 49 50 0A 本機 → PC:40 89 01 49 50 36 0A	HDMI 1 入力の情報を得たとき

主な仕様

品名	D-ILA プロジェクター	
型名	DLA-Z7-B、DLA-Z5-B、DLA-Z5-W	
表示パネル/サイズ	D-ILA 素子 ※1、2 0.69 型 4K D-ILA (4096×2160 画素)×3 枚	
投写レンズ	1.6 倍電動ズームレンズ、ズーム・フォーカス電動	
光源	レーザーダイオード	
対応画面サイズ	約 60 型～200 型(アスペクト比 16:9)	
明るさ	2300 lm Z7 、2000 lm Z5	
ズーム倍率	1.6 倍	
投写比	1.34～2.14(アスペクト比 16:9) 1.26～2.01(アスペクト比 17:9)	
投写距離	P. 78 をご覧ください。	
入力対応信号	P. 80 をご覧ください。	
表示解像度	4096×2160 画素	
入力端子	HDMI 入力	2 系統、HDMI 19 ピン×2 (HDCP2.3 に対応) ※3
制御端子	LAN 端子	1 系統、RJ-45 プラグ、10BASE-T/100BASE-TX
	サービス端子	SERVICE 1 系統(USB TypeA) ※4
使用電源	AC 100 V、50 Hz/60 Hz	
消費電力	280 W(通常待機時:1.5 W、エコモード待機時:0.3 W)	
使用環境	温度:5°C～35°C、湿度:20%～80%(非結露)、保存温度:-10°C～60°C	
設置高度	6,561 ft(2,000 m)以下	
外形寸法(横幅×高さ×奥行)	450 mm×181 mm×479 mm(フット含む)	
質量	14.8 kg Z7 、14.6 kg Z5	
付属品	P. 3 をご覧ください。	

※1 D-ILA とは、Direct drive Image Light Amplifier の略称です。

※2 D-ILA 素子は非常に精度の高い技術で作られており、99.99%の有効画素がありますが、0.01%以下の画素欠けや常時点灯するものがありますので、あらかじめご了承ください。

※3 HDCP とは、High-bandwidth Digital Content Protection system の略称です。HDCP 規格変更などにより HDMI 入力端子の映像が表示されないことがあります。

※4 ソフトウェアアップデート機能、設定バックアップ機能

- 仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。
- このプロジェクターを使用できるのは日本国内のみで、外国では電源電圧が異なりますので使用できません。
This projector is designed for use in Japan only and can not be used in any other country.
- 写真や図は説明をわかりやすくするために、誇張・省略・合成をしています。実物とは多少異なりますのでご了承ください。
- 本機は「JIS C61000-3-2 適合品」です。



本機は、HDR10+ Technologies, LLC が定める「HDR10+」規格の認証を取得しました。ダイナミックメタデータに従ってシーンごとに最適なトーンマッピングを行うことで「映像制作者の意図する HDR 映像」を忠実に再現し楽しめます。HDR10+™ ロゴは、HDR10+ Technologies, LLC の商標です。



本機は、isf の認証を取得していますので、isf 認定を受けたトレーナーによるキャリブレーション調整を行うことが可能です。キャリブレーションを行うことで画質モードに isf モードが追加されます。詳しくは isf ホームページをご覧ください。
<http://www.imagingscience.com/>

商標と著作権について



HDMI、HDMI High-Definition Multimedia Interface という語、HDMI のトレードドレスおよび HDMI のロゴは、HDMI Licensing Administrator, Inc.の商標または登録商標です。



FILMMAKER MODE™ ロゴは、UHD Alliance, Inc. の商標です。

FILMMAKER MODE™

画面サイズと投写距離

画面サイズ 対角(型)	投写距離 (m)									
	17:9 スクリーン		16:9 スクリーン		2.35:1 スクリーン		2.40:1 スクリーン		4:3 スクリーン	
	ワイド端	テレ端	ワイド端	テレ端	ワイド端	テレ端	ワイド端	テレ端	ワイド端	テレ端
60	1.68	2.72	1.77	2.85	1.87	3.02	1.87	3.03	2.17	3.50
70	1.97	3.18	2.07	3.34	2.19	3.53	2.20	3.54	2.54	4.10
80	2.26	3.63	2.37	3.82	2.51	4.04	2.52	4.05	2.92	4.69
90	2.54	4.10	2.68	4.31	2.83	4.55	2.84	4.56	3.29	5.28
100	2.83	4.56	2.98	4.79	3.15	5.06	3.16	5.08	3.66	5.88
110	3.12	5.02	3.28	5.28	3.47	5.57	3.48	5.59	4.03	6.47
120	3.41	5.48	3.58	5.76	3.79	6.08	3.80	6.10	4.40	7.06
130	3.69	5.94	3.89	6.24	4.11	6.59	4.12	6.62	4.77	7.65
140	3.99	6.40	4.19	6.73	4.43	7.11	4.44	7.13	5.14	8.25
150	4.27	6.86	4.49	7.21	4.75	7.62	4.76	7.64	5.51	8.84
160	4.56	7.32	4.80	7.70	5.07	8.13	5.08	8.16	5.88	9.43
170	4.85	7.78	5.10	8.18	5.39	8.64	5.40	8.67	6.25	10.02
180	5.14	8.24	5.40	8.67	5.71	9.15	5.72	9.18	6.62	10.62
190	5.42	8.71	5.70	9.15	6.03	9.66	6.04	9.69	6.99	11.21
200	5.71	9.17	6.01	9.63	6.34	10.17	6.37	10.21	7.36	11.80

画面サイズ 対角(型)	投写距離 (m)			
	2.35:1 スクリーンに 16:9 映像を投射		2.40:1 スクリーンに 16:9 映像を投射	
	ワイド端	テレ端	ワイド端	テレ端
60	1.40	2.27	1.38	2.23
70	1.64	2.66	1.61	2.61
80	1.88	3.04	1.85	2.99
90	2.13	3.43	2.09	3.37
100	2.37	3.82	2.33	3.75
110	2.61	4.20	2.56	4.13
120	2.85	4.59	2.80	4.51
130	3.09	4.98	3.04	4.89
140	3.34	5.36	3.28	5.27
150	3.58	5.75	3.51	5.65
160	3.82	6.14	3.75	6.03
170	4.06	6.52	3.99	6.41
180	4.30	6.91	4.23	6.79
190	4.55	7.30	4.46	7.17
200	4.79	7.68	4.70	7.55

※ 投写距離表は設計値であり±5%の誤差が生じることがあります。ワイド端もしくはテレ端でお使いになる場合には5%程度の余裕を持って設置してください。

入力可能な信号の種類

ビデオ

デジタルビデオ信号	480p 576p 720p 50/60 Hz 1080p 24/25/30/50/60 Hz 2K (2048×1080) 24/25/30/50/60 Hz ※ 4K (3840×2160) 24/25/30/50/60 Hz 4K (4096×2160) 24/25/30/50/60 Hz
-----------	--

※ 2K (2048×1080) 24/25/30/50/60Hz の信号を入力する場合は、「HDMI フォーマット設定」を「オプション 1」に設定してください。(P. 50)


PC 信号(HDMI)


名称	解像度	fh [kHz]	fv [Hz]	dot CLK [MHz]	総ドット数 [dot]	総ライン数 [line]	有効ドット数 [dot]	有効ライン数 [line]
VGA	640×480	31.469	59.940	25.175	800	525	640	480
SVGA	800×600	37.879	60.317	40.000	1056	628	800	600
UXGA	1600×1200	75.000	60.000	162.000	2160	1250	1600	1200
WUXGA	1920×1200	74.556	59.885	193.250	2592	1245	1920	1200
QXGA	2048×1536	95.446	59.954	267.250	2800	1592	2048	1536
WQHD	2560×1440	88.787	59.951	241.500	2720	1481	2560	1440

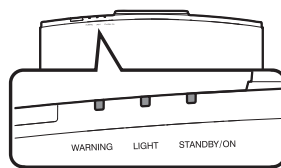
※ 入力可能な信号でも、お使いの PC やケーブルによっては正常に映らないことがあります。正常に映らない場合はほかの対応解像度に変えるか、ケーブルを変えると映る場合があります。

本体インジケータの表示について

発光の図の意味

 インジケータの点灯を表します。

 インジケータの点滅を表します。



動作モードの表示

本体インジケータの色と点灯・点滅で表示します。

「STANDBY/ON」点灯(赤)
・スタンバイ状態のとき



「STANDBY/ON」点灯(緑)
・光源起動中のとき



すべて消灯
・映像投写のとき
・「ECO Mode」で待機状態のとき



「STANDBY/ON」点滅(赤)
・クールダウンモードのとき



「STANDBY/ON」点滅(緑)
・映像を一時的に消している
(HIDEオン)のとき















警告表示

「WARNING」と「LIGHT」インジケータの表示動作(繰り返し)で警告の内容が分かります。このとき「STANDBY/ON」インジケータは本機の動作モードにあわせて点灯・点滅します。(「動作モードの表示」P. 81参照)

表示すると同時に警告モードになり、自動的に投写を中断して冷却ファンを回します。

冷却中は電源の再投入はできません。冷却終了後、下記の確認を行ってください。

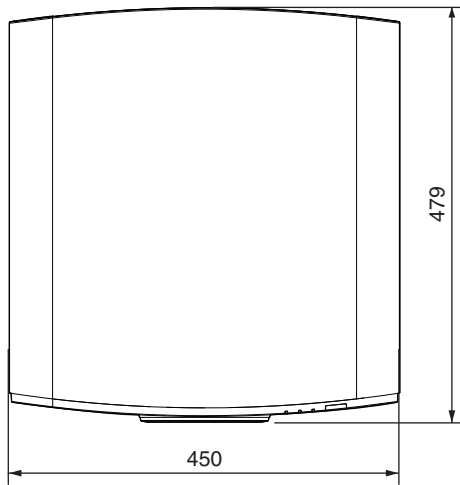
再度、警告モードになるときは、冷却ファンが停止してから電源プラグをコンセントから抜いてください。その後、お買い上げの販売店、またはお近くのサービス窓口にて修理を依頼してください。

点灯・点滅の状態			点滅回数	内容	確認と対応
WARNING	LIGHT	STANDBY/ON			
 (赤)	 LIGHT (赤)	 STANDBY/ON モードの表示	2回	冷却ファンが異常停止したとき	<ul style="list-style-type: none"> 吸気口をふさぐようなものがないか確認してください。 外部の温度が正常か確認してください。
			3回	内部の温度が異常に高いとき	
			4回	外部の温度が高いとき	
 (赤)	 LIGHT (橙)	 STANDBY/ON モードの表示	1回	DD基板に異常があるとき	対応: 本機をしばらくそのまま冷やしてください。その後、電源を入れてください。
			2回	ファンモーター基板に異常があるとき	
			3回	CPU基板に異常があるとき	
			4回	パワー基板に異常があるとき	
 (赤)	 LIGHT (橙)	 STANDBY/ON モードの表示	1回	光源に異常があるとき	お買い上げの販売店、またはお近くのサービス窓口にて修理を依頼してください。
			2回		
			3回		
			4回	安全スイッチが作動したとき	
 WARNING (赤)	 LIGHT (赤)	 STANDBY/ON (緑)	3回	本体とリモコンのリモコンコードが異なるとき	本体とリモコンのリモコンコードを正しく設定してください。

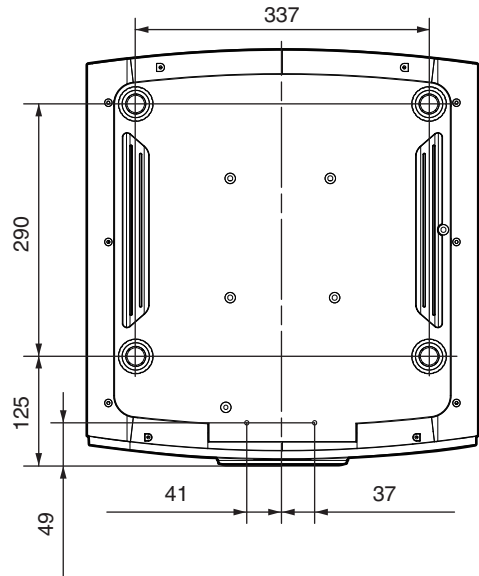
外形寸法

(単位:mm)

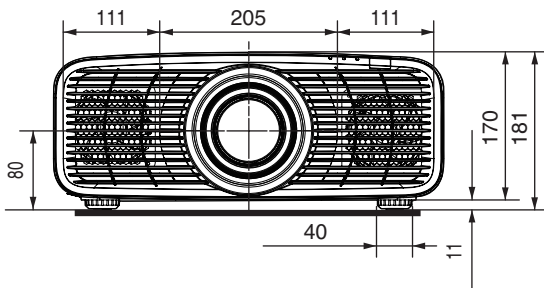
上面



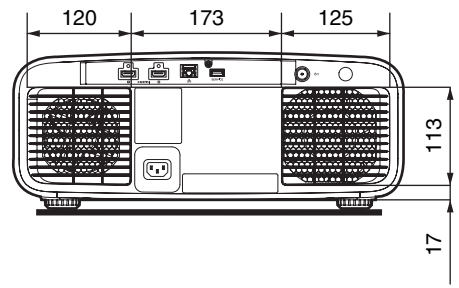
底面



前面



後面



索引

あ	明るさ(画質調整)	41	固定するとき(据置き)	17
	明るさ(カラープロファイル)	43	固定するとき(天吊り)	17
	アスペクト	25	コントラスト	41
	アナモフィック	57	こんな表示がされたら	70
	アパーチャー	41	さ	
	暗部補正	45, 46	彩度	43
	位置調整のしかた	18	サブネットマスク	59
	イメージパターン	52	色相	43
	色あい	41	システム設定	62
	色温度	36, 44	自動画質モード設定	48
	色選択(カラープロファイル)	43	シフト	24
	色選択(ガンマ/トーンマップ)	45	情報	64
	色のこさ	41	垂直周波数	64
	インジケータ表示	81	水平周波数	64
	映像タイプ	50	ズーム	24
	映像をみる	22	スクリーン No.	58
	エンハンス	40	スクリーンアスペクト	58
	オールリセット	63	スクリーン設定	58
	オフセット青	44	スクリーン補正	58
	オフセット赤	44	スムージング	40
	オフセット緑	44	セーブ	51
	オフタイマー	61	接続する	19
	主な仕様	76	設置スタイル	58
か	外形寸法	83	設置するときのご注意	16
	解像度	64	設置設定	51
	外部制御	72	設置設定モード	51
	各部のなまえとはたらき	10	設置方法	16
	画質調整	41	設定インポート	63
	画質モード	26, 36, 41	設定エクスポート	63
	画像設定	36	設定バックアップ	62
	画素調整	53	全面調整(画素)	54
	画面サイズと投写距離	78	全面調整(ファイン)	55
	画面マスク	57	ソース	64
	カラースペース(HDMI 設定)	48	ソフト Ver.	64
	カラースペース(情報)	64	ソフトウェア アップデート	63
	カラープロファイル	36, 43	た	
	カラーマネージメント	43	台形補正	58
	ガンマ	30, 38, 45	ダイナミックコントロール	41
	グラフィックモード	40	調整(画素)	53
	警告表示	4	調整(画素調整)	53
	ゲイン青	44	調整エリア	53
	ゲイン赤	44	調整色	53
	ゲイン緑	44	調整パターン	53
	言語	60	調整パターン色	53
	光源点灯時間	64	デフォルト ゲートウェイ	59
	高地モード	62	電源コード	3, 21
	故障かな?と思ったら	66	投写画面の調整	24
			投写距離	78
			トーンマップ	30, 38, 45

な 入力(HDMI 設定)	48
入力(情報)	64
入力可能な信号の種類.....	80
入力情報	60
入力端子.....	11
ネットワーク設定.....	59
は ハイドモード.....	22, 61
バックカラー	60
ピクチャートーン	45, 46
表示設定.....	60
ファイン	53
フォーカス	24
付属品.....	3
部分調整(ゾーン調整)	56
保証とアフターサービス.....	71
補正值(色温度)	44
補正值(ガンマ/トーンマップ)	45
ま 明部補正	45, 46
メニュー.....	14
メニュー位置	60
メニュー項目一覧.....	32
メニューで行う調整と設定.....	32
モード設定.....	36
モード名編集	51
や ユーザー名編集	42
ら リモコンコード	62
レンズ.....	10
レンズカバー.....	3
レンズコントロール	24, 52
レンズセンター	52
ロード.....	51
ロゴ	60
ロック	52

英数字

Clear Motion Drive	31, 40
Colorimetry	64
Control4 SDDP	59
Deep Black	39
DHCP クライアント	59
ECO Mode	61
ECO 設定.....	61
FILMMAKER MODE	49
HDMI 設定.....	48
HDMI 入力端子.....	11, 19
HDMI フォーマット設定.....	50
HDR	64
HDR Level	38
HDR Processing	38
HDR 設定	38
HDR10	49
HDR10+	49
IP アドレス	59
LAN 端子.....	11, 20, 72
LD パワー	41
MAC アドレス	59
Max CLL/FALL/DML	64
MPC.....	40
SDR.....	48
SERVICE 端子.....	11, 63


ご相談や修理は

製品についてのご相談や修理のご依頼は、お買い上げの販売店にご相談ください。

転居されたり、贈答品などでお困りの場合は、下記の窓口にご相談ください。
ご相談窓口におけるお客様の個人情報の取り扱いについては取扱説明書をご覧ください。

お買い物相談や製品についての全般的なご相談 JVCケンウッドカスタマーサポートセンター

フリーダイヤル

 0120 - 2727 - 87

携帯電話・一部のIP電話・FAXなどからのご利用は



(0570) 010 - 114 (携帯電話)

電話 (045) 450 - 8950 (一部のIP電話)

FAX (045) 450 - 2308

〒221-0022 神奈川県横浜市神奈川区守屋町3-12

修理に関するご相談

上記JVCケンウッドカスタマーサポートセンターにお問い合わせいただくか、
下記ホームページをご覧ください。

<https://www.victor.jp/projector/support/>

ホームページ <https://www.jvckenwood.com>

株式会社 JVCケンウッド

〒221-0022 神奈川県横浜市神奈川区守屋町3-12